

## No.52 &gt;&gt;&gt; Contents

- 年頭所感  
 ..... 一般財団法人大日本蚕糸会 会頭 小林芳雄 ——— ①
- 提携トピックス  
 絹衣によせて..... 青山きもの学院長 新田 葉子 ——— ②
- 蚕糸絹トピックス  
 川崎大師平間寺での「純国産宝絹 (takaraginu) 展」  
 ..... 蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会 事務局長 大石 明 ——— ⑦  
 第 55 回実りのフェスティバルで展示  
 ..... 一般財団法人大日本蚕糸会 ジャパンシルクセンター ——— ⑩
- シルク遺産を訪ねて③①  
 松ヶ岡開墾場の蚕室等..... 東京産業考古学会 副会長 平井東幸 ——— ⑪
- シルク豆辞典  
 蚕の語源について..... 東京農工大学農学部蚕学研究室 准教授 横山 岳 ——— ⑮
- 研究・技術情報  
 遺伝子組換えカイコによる高機能シルクの生産  
 ・ 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 上級研究員 飯塚哲也 ——— ⑳
- イベント情報 ——— ㉓
- 提携支援センターから  
 平成 28 年度第 4 次分の純国産絹マーク使用許諾状況 ——— ㉖  
 純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧 ——— ㉘  
 提携支援センター活動日誌 ——— ㉚  
 第 5 回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール出品募集 ——— ㉜
- 蚕糸絹関係博物館一覧 ——— ㉞
- 蚕糸絹関係機関ホームページ一覧 ——— ㉟
- 統計資料 (統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。) ——— ㊳





## 一般財団法人大日本蚕糸会 会 頭 小林 芳雄

明けましておめでとうございます。本年も、我が国の蚕糸・絹業の発展のため、皆様から大日本蚕糸会に対して期待される役割が果たせるよう努力してまいりますので、宜しくお願ひ申し上げます。

本年は、平成 20 年度から開始された「蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業」が終期を迎えます。

この事業は、当時の蚕糸関係者を含む有識者の論議を踏まえて行政が打ち出した方針のもとに“蚕糸・絹業の連携による高品質な純国産ブランドの確立”を目指すものです。本会がその事業の実施主体である提携支援団体を務めてまいりました。これまで純国産の絹製品を生産販売する多くの提携グループが形成されるとともに、純国産絹マークを付した製品の普及が進められてきました。こうした経緯と蚕糸・絹業を取り巻く現状を踏まえながら、平成 29 年度以降において新たに進めるべき対策の在り方と本会の果たすべき役割について検討を急いでいるところです。

我が国の蚕糸業は引き続き縮小傾向にあります。一方では「日本もの指向」にみられるように、様々な日本産品の良さや「和」の伝統に対する内外からの関心の高まりが引き続いています。このような状況からも、純国産絹製品の希少性をむしろ強みにして、一層の品質向上の努力や物語性の強調による付加価値の向上を図り、内外の新たな需要の確保に結び付けていくことが重要と考えられます。新たな対策の方向については、純国産絹製品への需要者からの評価をより高めていくことを主眼として、そのための提携グループの目的・活動を充実できるような仕組みを関係の皆様とともに構築していければと思います。このことが、喫緊の課題とされる蚕糸業の担い手の確保にもつながるものといえます。

本年は 2020（平成 32）年東京オリンピック・パラリンピックに向けた準備が本格化していくこととなりますが、大会行事の中での純国産絹製品を含めた和装の活用を求める動きが関係業界の中から出ています。また、遺伝子組み換え技術による新しい機能を持つシルクについては実用化に向けて養蚕農家での一般飼育を目指す段階に至っており、このような我が国蚕糸業の新たな展開につながる様々な取り組みにも注目していきたいと思ひます。

## 絹衣によせて

青山きもの学院長

新田 葉子

### 1 衣は、母が源

あらたまの 年は来<sup>き</sup>ゆきて 玉<sup>たまづき</sup>梓<sup>すき</sup>の  
使<sup>つかい</sup>の来<sup>こ</sup>ねば 霞<sup>はるひ</sup>立つ 長<sup>はるひ</sup>き春日<sup>はるひ</sup>を  
天地<sup>あめつち</sup>に 思<sup>おも</sup>ひたらはし たらちねの  
母<sup>か</sup>が養<sup>こ</sup>う蚕<sup>まゆこも</sup>の 繭<sup>いと</sup>隠<sup>い</sup>り 息<sup>いきづ</sup>衝<sup>つ</sup>きわたり  
わが恋<sup>こ</sup>ふる 心<sup>こ</sup>のう<sup>こ</sup>ちを人<sup>ひと</sup>に言<sup>い</sup>ふ  
ものにしあらねば 松<sup>まつ</sup>が根<sup>ね</sup>の  
待<sup>まち</sup>つこと遠<sup>とほ</sup>く 天<sup>あまつた</sup>伝<sup>た</sup>ふ 日<sup>ひ</sup>の暮<sup>くれ</sup>れぬれば  
白<sup>しろ</sup>木<sup>たへ</sup>綿<sup>へ</sup>の わが衣<sup>ころも</sup>手<sup>で</sup>も 通<sup>とほ</sup>りて濡<sup>ぬ</sup>れぬ

<万葉集より>

また新しい年がやってきても、便りの使いが来ないので霞の立つ長い春の日に空と地面がいっぱいになるほどあなた様への想いをたたえて、母が飼っている蚕が繭にこもっているように息を詰まらせ、私が恋する気持ちを、人に言ったりしてはいけないので、待ち遠しい気持ちで、天を渡る日が暮れてしまうと、私の衣の袖は涙に濡れてしまうのでした。

糸を吐して繭に隠る蚕に神秘を感じるのは古来よりのこと。多くの歌にも詠まれているものの…もはや現代語訳と解説なしでは意味もおぼつかぬ体たらくですが、美しく響く言葉の並びには心からうっとりいたします。かくて衣は、母が源。絹衣は魂込める身近なものだったと知り、脈々と今、日常に纏う暮らしを送っていることに感嘆するのです。

## 2 純国産絹との出逢い

青山きもの学院では、2014（平成26）年から純国産絹によるきもの創りを行ってまいりました。初めての作品は、蚕品種「蚕技研11号」を使用した一方付け花菱七宝文の色無地。試織を何度も重ね、七宝を裾は大きく上へと徐々に小さくし、衿肩回りは無地に見えるように配しました。色選びは浦野理一氏監修の「日本の色と紋様」（毎日新聞社刊）を参考にして15色、凛と美しく仕上がりました。純国産絹の貴みと共に、一格上の色無地として、とても大切に重宝なきものとなりました。このきものは、農



写真1：初作は、2015（平成27）年のお正月に、農林水産省本館「和の空間」に展示していただきました。

林水産省本館1階の和の空間に展示され、嬉しく拝見いたしました（写真1）。

二作目は、雲立涌文様を紋紗で表現し、その配し方は二通り。一つは、大きな立涌から小さな立涌へと裾から上に向かって登り立つような付け下げに、もう一つは、四カマの大きな立涌を前面に配しました。紋紗の程よい透け感と柔らかい風合いにより、立夏（新暦5月5日頃）から白露（新暦9月7日頃）の頃までの長い期間お召しいただける仕上がりです。また、きものだけでなくちりよけコートを作る方も多く純国産絹の心地よさが尚一層感じられる一枚となりました。

三作目の地紋は、変り亀甲とそこにほのかに浮かぶ丸紋。絹糸の特性を生かすこ



写真2：青山きもの学院オリジナル「万朶」は、雲の中を突き抜けた時に出逢える色を想像して選びました。モデルは、筆者本人。

とが出来たこの紋様は、見る角度によって光が房のように降り注ぐ様を感じて柄名を「万朶<sup>ぼんだ</sup>」としました。たたき染め(草木染め)と色無地の二通り。帯の合わせ方次第で礼装にもおしゃれ着にもなり袖<sup>そで</sup>を通す回数が多くなりそうな一枚となりました。三作はどれもきっと、着る方に寄り添ってくれる良いきものとなることでしょう(写真2)。

### 3 養蚕文化を伝えていくために

これらの作品を通し、純国産絹そして日本の養蚕文化を青山きもの学院受講生にお伝えしていくために、本学院講師は、大日本蚕糸会蚕糸科学研究所(以下「蚕研」と言います。)と同蚕業技術研究所(以下「蚕技研」と言います。)に伺いました。

蚕研では、世界文化遺産となった富岡製糸場を想わせる器械繰糸工程を丁寧に説明していただきながら見学いたしました(写真3)。



写真3：蚕研で繰糸機<sup>そうしき</sup>を見学しました。

茨城県阿見町の蚕技研には、バスを仕立てて伺い、広大な桑畑と桑の葉で養われるたくさんの蚕<sup>まぶし</sup>と簇の繭を直接手にとらせて

いただきました。また、1,200種を超える蚕の原種が長きに渡り伝えられていることに驚き、新種の研究開発には、世界一のノウハウがあることに日本人としての誇りを感じることが出来ました(写真4、5及び6)。



写真4：蚕技研の研修室では、日本の養蚕業の歴史と現状の説明を伺いました。



写真5：足元の悪い中、力強い緑の蚕技研の桑畑を見学しました。



写真6：蚕技研養蚕室では、実際に桑の葉を食べている蚕から繭になるまでの工程を見学しました。



写真7：蚕技研上蔭室

#### 4 追憶。県都まえばし いとのまち

二つの研修会を通して自分の小さな頃を思い起こしました。私の故郷は群馬県前橋市、糸の街です。その頃は、赤城山・榛名山の麓のほとんどが桑畑だと思えますし、蚕と同居するどっしりとした構えの農家もたくさん目にしました。街の中にもまだ桑畑があり、友人には養蚕農家の子供もいましたから、ほの暗い家の中で白くふっくらとした蚕が桑の葉を音をたてて食べる様子は、鮮明に覚えています。

また、近所の糸繰り工場の前を通りかかる時は、その独特なおいと熱気に働く方々の苦労を思ったり、湯に満ちた鍋そばの際で糸を繰り出す手の動きの美しさに見とれたりしたものでした。撚り屋さんの子よの家に遊びに行った折には、会話も成り立たぬほどの大きな機械音に閉口しながらもかせとなり座敷に並べられている生糸の鈍い光沢には強く心惹かれました。絹のにおいも嫌いではありませんでした。蚕も糸も子供が触ってはいけない大切なものでしたので、目と耳と鼻の記憶です。器械の動力に当時としては珍しい水車が一役かっていたこと

も故郷の風景として心に残っています。

今さらながら、蚕を育て生糸にするまでの工程を生業なりわいとしている街に生まれ、肌に触れ、感じて暮らしていたことをつくづくと顧み、それら一連の事柄が訳も知らず神々しく尊いものと感じながら大きくなったと気付くのです。そして、その上に積み重なりたっている現在なのだと思いついたのです。

#### 5 きものに力をいただいて

きものは不思議な衣服だと思えます。同じ形に同じ着方。左右の身頃みごろを搔き合わせて紐で結び留めるだけです。なのに着姿は百人百様。その人その人の内面が出て、裸でいるよりも丸々と見えてしまっているのではないかと感ずることもしばしばです。肌の露出もごくわずか、顔と首、両拳てだけ。なのに、うなじはもとより袖口や裾からわずかに素肌がのぞく時の妖艶さは女性が見てもドキッとさせられます。さらに、最も汚れやすい衿と足元にあろうことか白。これぞ日本の美意識と感嘆し、真に厳しく美しい衣服だと感じ入るのです。

また、きものは人の心持ちを変える力を持っているとも思えます。俳人いなはたていこ 稲畑汀子先生の作品にこんな句があります。

「ものの芽の 力に雨の 加わりぬ」

恵みの雨のエネルギーが芽吹きの力を更に大きくしていることへの感嘆ですが、“ものの芽”を“我”に、雨を“きもの”に置き換えてみると一つの真理となるように思えます。威儀を正す時、気持ちを表す時、後

---

---

押しして欲しい時、きものから力をいただ  
いて向かうのです。私は、仕事柄初めての  
方にお会いすることや大勢の方の前でお話  
をする機会があります。そんな折には、き  
ものに支えられたり、背中を押してもらっ  
ていますし、そうあって欲しいと今日着る  
きものを選んでいきます。先のリオデジャネ  
イロオリンピック閉会式に三ツ紋比翼付  
色留袖いろとめそでで臨んだ小池百合子都知事もきっと  
そうであったろうと想像いたします。

## 6 きものを伝えていくこと

もう一つきものからいただくものがあり  
ます。日本の伝統文化を見つめる目です。  
花・香・茶・能・歌舞伎・文学・絵・建  
築・仏教美術等々。どれもきものと深いと  
ころでつながりつつ複雑に絡まりあってい  
ます。これらを少しずつ解きほどこき、理解  
の点が線となり面と成し立体となってやが  
て感得へ。きものを着続けているからこそ  
生まれる視点であり、登れる高みでしょう。

いつか雲の中を突き抜け、大きな視野で文  
化を見つめたいものです。

きものは良きものです。一人でも多くの  
方に親しんでいただきたい。そして気付き  
と学びの時を得、真に豊かな暮らしを送っ  
ていただきたい。そのお手伝いをさせてい  
いただきたいと心から願っております。

この純国産絹の取り組みもそのひとつ。  
養蚕文化を大切に伝え残したいと考えてお  
ります。かくて私は、毎日きもので過ごし、  
日々是好日。となるのです。

### ■新田葉子(にった・ようこ)の紹介

青山きもの学院長

〒107-0062

東京都港区南青山5-7-17 小原流会館5階

TEL: 03-3409-1051

FAX: 03-3797-7652

HP: <http://www.aoyamakimono.com>

純国産絹マーク表示者登録番号：188

## 川崎大師平間寺での「純国産宝絹（takaraginu）展」

蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

事務局長 大石 明

### 純国産宝絹展の概要

2016（平成28）年10月21日（金）～10月23日（日）、神奈川県川崎市の「川崎大師<sup>へいげん</sup>平間寺」信徒会館において、蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会（以下「協議会」といいます。）は、「純国産宝絹（takaraginu）展」を開催しました。全国的に有名な寺院での開催なので1,700名以上のお客様に来場いただきました。川崎大師平間寺様の協力により、近隣の京浜急行駅

にポスター（写真1）を掲示して、近隣地域の皆様、また、多くの信徒の皆様に来場いただきました。

今回は、横浜の「シルク博物館」の協力で講演、実演が行われました。一般財団法人大日本蚕糸会蚕業技術研究所（以下「蚕技研」といいます。）及び国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の協力で、生きたカイコと多様な繭の展示コーナ



写真1：告知ポスター



写真2：会場風景 初日の顧客の状況

一、光る繭等の展示を行いました。試作品コーナーでの展示としては、女子美術大学及び蚕糸・絹業提携グループ（以下「提携グループ」といいます。）の作品を展示しました。

## 各コーナーの内容

### 1) 純国産絹 PR 展示コーナー

- ・生きたカイコと多様な繭、光る繭の展示



写真3：生きたカイコ、光る繭、パネルの展示

- ・「カイコの一生」のほか関連パネル展示
- ・映像上映：奇跡の糸が出来るまで

### 2) シルクカルチャー講演会

- ・講師 シルク博物館館長 坂本 英介  
「横浜開港とシルクの話」
- ・講師 (一財)大日本蚕糸会蚕糸科学研究所  
所長 清水 重人  
「絹と人のかかわり」
- ・講師 蚕技研所長 新保 博  
「蚕のお話」

### 3) 試作品展示コーナー

- ・女子美術大学試作品コーナー  
若さを生かして初々しい感性をアピール



写真4：女子美術大学生の作品展示

- ・提携グループ試作品コーナー  
純国産絹だから訴求できる素材の良さ、技術及び感性の高さをアピール

### 4) 提携グループの出品コーナー（一般展示）



写真5：蚕糸・絹業提携グループの一般展示

### 5) 実演コーナー

- ・真綿づくり シルク博物館 河合 貞子
- ・結城紬地機 株式会社小倉商店  
小柳阿佐子
- ・紅花染め 株式会社新田

- 
- 
- 新田 克比古
  - ・組紐 株式会社龍工房
  - 福田 隆太
  - ・座繰り 蚕研

6) 参加型ワークショップ

- ・ミニ手機織 西陣織会館
- 片岡 志保里
- ・シルクハンカチ染め 新田 克比古
- ・組紐ブレスレット
- 福田 隆・福田 隆太
- ・一粒繰り 蚕糸科学研究所
- ・繭クラフト シルク博物館
- 山本 節子・大野 勝子

パブリシティ

- 1) ポスター B2 サイズ 400 枚
- 2) パンフレット B5 サイズ 3,000 部
- 3) 協議会ホームページに告知アップ

■大石明（おおいし・あきら）の紹介  
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会  
事務局長

〒 103-0013

東京都中央区日本橋人形町 3-5-4

M・S-2 ビル

TEL : 03-5642-6527、FAX : 03-5642-6528

E-mail : [sanshi@kyogikai.com](mailto:sanshi@kyogikai.com)

HP : <http://www.takaraginu.com>

## 第55回実りのフェスティバルで展示

一般財団法人大日本蚕糸会  
ジャパンシルクセンター

2016（平成28）年11月11日（金）～12日（土）に、東京都豊島区池袋サンシャインシティで、平成28年度第55回農林水産祭実りのフェスティバルが開催された。ジャパンシルクセンターは、この行事に1985（昭和60）年以来参加しています。今回は、パネル展示、座繰り体験、繭・カイコの飼育・上簇<sup>じょうぞく</sup>展示、絹石けん、靴下、はぎれの販売をしました。

座繰り体験は、老若男女の方々が面白がって座繰り器のハンドルを回したり、体験の写真を楽しく撮って行ってくださいました。これをきっかけに話が弾み、生きたカイコを見たり、絹製品を買って行ってくださいました。主な質問は、次のとおりです。

・生糸は、何個の繭（繭糸<sup>けんし</sup>）からできてい

るのか。（31<sup>デニール</sup>d）で10～11個）

- ・繭の最初の糸口（緒口<sup>ちよぐち</sup>）はどうやって見つけるのか。（稲の穂で作った箕子<sup>みごぼうき</sup>箒で繭の表面をなでる。そこから緒糸<sup>ちよし</sup>を見つける。）
- ・繭1個の長さはどのくらいか。（1,100～1,300m）
- ・生糸、繭糸は、繰ることで切れないか。（タイ国の諺にある女性の髪の毛と同じタンパク質繊維なので、象の足も縛ります。）
- ・カイコは何日で繭になるのか。（孵化してから25日前後）
- ・黄色、緑、橙色の繭は種類が違うのか。（黄色が本来の色かと思うが突然変異でいろんな種類の繭色になっている。但し、天蚕は野生のカイコでこの緑色が本来の色です。）



写真1：展示の様様



写真2：笑顔はじける座繰り体験

## 松ヶ岡開墾場の蚕室等

東京産業考古学会

副会長 平井 東幸

山形県の鶴岡市（人口13万人）は、直木賞作家の藤沢周平の生地として一般には名を知られているし、住民が演じる黒川能でも著名な地だが、何よりも14万石の庄内藩の城下町であった。明治維新直後、廃藩置県の前<sup>まつがおかかいこんじょう</sup>に造成された松ヶ岡開墾場は鶴岡市羽黒町にあり、JR鶴岡駅から車で20分。ここには140年以上前に建設された蚕室5棟と本陣等が現在も保存活用されている。国の史跡、経済産業省の近代化産業遺産であり、世界に誇るべきシルク遺産である。

### 開墾場の経緯

松ヶ岡開墾は、士族授産、生糸立国、殖産興業の時勢下、<sup>ぼしん</sup>戊辰戦争で着せられ賊軍の汚名を雪ぐべく、<sup>そそ</sup>徳義を本として産業を

興し、国家に報じ、天下の模範になろうという理念のもと、1872（明治5）年から開始された大規模なプロジェクトで、蚕糸事業の創設と桑園造成を目的に士族集団がこれを実行した。全国的にも数少ない成功例である。月山山麓に明治7年までに311haの桑園を造成、1877（明治10）年までに大型蚕室10棟（1875（明治8）年4月に4棟、1876（明治9）年4棟、1877（明治10）年冬に2棟）を建設して養蚕事業を開始した。さらに、鶴岡に、1887（明治20）年に製糸工場を、1935（昭和10）年には絹織物工場を建設し、この地で桑から蚕種製造、養蚕、製糸、織布、精練、染色のシルク一貫生産体制を確立した。

開墾場の面積は98万坪（320ha）、現在は68万坪（220ha）であるが、その中



図1：松ヶ岡開墾場の見取り図。



図2：松ヶ岡開墾場の俯瞰写真。

写真提供：中村憲一氏（ドローンによる撮影）

写真提供は、松ヶ岡開墾記念館。以下同じ。

心部に蚕室が建設され、5棟が現存している（図1及び2）。現在も、55戸の住民と農業生産法人がこの地で農業を営んでいる。コメ、果樹、花卉、野菜等の栽培を行っている。なお、開墾場の歴史を知るには、小冊子『松ヶ岡かいこん物語り』（鶴岡まちづくり塾羽黒グループ、2014（平成26）年）が便利である。

### 巨大な5棟の蚕室

蚕室とは、「蚕を飼う部屋、建物全体を指している場合もある」（『蚕糸絹用語集』（大日本蚕糸会、2012（平成24）年）だが、ここでは、後者の意味。上述のように、ここには、当初10棟の蚕室があった（下表参照）。木造2階建てが8棟、換気用の越屋根こしを設けている。長さは21間（38.2m）、幅は5間（9.1m）、高さ5.4間（9.8m）と真に巨大な木造建物。このほかに同規模の木造平屋が2棟あった。瓦は1875（明治8）年に取り壊された鶴岡城から運んだもの。因みに、瓦に「かたばみ紋（酒井氏の家紋）」が確認できる。これらのうち1875（明治8）年完成

の4棟は、棟梁高橋兼吉の作で、1876（明治9）年完成の4棟は相馬富吉によるもの。いずれも上州島村（群馬県伊勢崎市）の田島家の蚕室（上州島村式）を模したものとされている。因みに、この田島家の蚕室は現存していないので、当地の5棟はなおさら貴重である。なお、この田島弥平旧宅は周知のように世界文化遺産に登録されている。

10棟のうち、現存しない六番から十番のうち、八番棟は1884（明治17）年に市内の小学校校舎用に移築、また、六番棟は松岡機業（新社屋を建設して六番棟は解体、その後、松岡機業は松岡と合併）、七番棟は、1937（昭和12）年に松山町の松岡製糸所（現在の松岡株式会社）に移築された。

### 松ヶ岡開墾記念館

1983（昭和58）年に、こうした先人の偉業顕彰し、その歴史を後世に継承するため、一番蚕室を使って松ヶ岡開墾記念館が開設された（図3）。1階には養蚕や製糸織物関係の道具類や商標等の文物がおよそ数百点（図4）、2階には、田中正臣・正

蚕室等の概要（2016（平成28）年8月現在）

名称	竣工年月	現状	所有者
一番蚕室	1875（明治8）年4月	松ヶ岡開墾記念館	鶴岡市
二番蚕室	同上	利用検討中	鶴岡市
三番蚕室	同上	庄内映画村(株)	鶴岡市
四番蚕室	同上	庄内農具館	鶴岡市
五番蚕室	1876（明治9）年	庄内映画村資料館	鶴岡市
六番蚕室	同上（1935（昭和10）年、松岡機業に移譲、1992（平成4）年解体）	現存せず	
七番蚕室	同上（1935（昭和10）年、松岡機業に移譲、2015（平成27）年逸失）	同上	
八番蚕室	同上（1884（明治17）年学校校舎に移築、1936（昭和11）年焼失）	同上	
九番蚕室	1877（明治10）年、（1884（明治17）年の暴風雨で倒壊）	同上	
十番蚕室	同上（1884（明治17）年の暴風雨で倒壊）	同上	
松ヶ岡本陣	1872（明治5）年移設	松ヶ岡地区の集会所	松ヶ岡開墾場
旧酒井家蚕室	1892（明治25）年、（1948（昭和23）年移築）	くらふと松ヶ岡	鶴岡市
新徴屋敷	1870（明治3）年、（1986（昭和61）年移築）	旧疋田家住宅	鶴岡市

佐氏が収集した郷土玩具コレクション約2万5千点が展示されている。

建物の見どころとしては、

- ① 1875（明治8）年建造の一番蚕室など4棟は、1876（明治9）年建造の蚕室4棟よりも柱が細く、従って本数も多いのに対して、たとえば1876（明治9）年建造の五番蚕室では、太い八角柱を使用しているの、本数も少なくて済み、屋内が広く使える。
- ② 2階の腰窓が無双窓になっていること。・・・通風換気のためであるが、寒い冬季では屋内が冷える由。
- ③ 蚕室の暖房用に1階には埋薪まいしん（図5）が、2階には石造りの炉が多数設置されている等であり、創建当時の状況が極めてよく保存されている。

なお、これらの施設に関して、『山形県近代化遺産総合調査報告書』（2001（平成13）年、山形県教育委員会）では記載が見当たらない。この調査は文化庁の指導で全国的に実施されたものであるだけに不思議ではある。

### 松ヶ岡本陣ほか

以上のように松ヶ岡開墾場の中心地には、壮大な明治初期に5棟の大型蚕室のほかにも、貴重な建造物が多数ある。とくに松ヶ岡本陣（図6）は、開墾場の事務所兼集会所として1872（明治5）年に移設された。この茅葺かやぶき・檜造りひのきづく平屋は、1622（元和8）年に藩主の仮御殿として京都から移設されたものと伝えられている由緒ある建物。現在は、地区の集会所と使用されてお



図3：蚕室の外観。左は松ヶ岡開墾記念館（一番蚕室）、右は三番蚕室。



図4：松ヶ岡開墾記念館1階の養蚕及び製糸関係の展示品。筆者撮影



図5：同1階の暖房用の埋薪



図 6：松ヶ岡本陣の外観

り、見学可能である。

さらに、旧酒井家蚕室、貯桑土蔵等の建造物があり、現在、それぞれ記念館、物販店、映画資料館等として利用されている。2016（平成 28）年 7 月にこれらの歴史的建造物は鶴岡市に移譲、整備が進められ、活用計画がたてられる予定。これを活用しながら保存されている地元の官民のご努力に敬意を表したい。

2016（平成 28）年 9 月 12 日には、酒田市で開催された「豊かな海づくり」にご臨席の天皇皇后両陛下の行幸啓を賜った。なお、開墾場内には、昭和天皇の行幸記念碑（御製歌碑：ふりつもる み雪にたえて  
いろかえぬ 松ぞ雄々しき 人もかくあれ）、貞明皇后（大正天皇の皇后）歌碑（御製：生まれ出む 蚕いかにと たね紙の あをみゆくいろ 見るがたのしさ）（図 7）、それに明治天皇御名代御台臨処記念碑が建立されている。皇室と養蚕との歴史的な密接なつながりが示されている。

希望としては、一つには、富岡製糸場竣工から数年後に建設された国内第 1 級のシルク遺産として国の史跡になっているが、保存状態も優れており、日本遺産等への早



図 7：貞明皇后の歌碑

急な指定が望まれる。もう一つは、鶴岡市中心から車で 20 分を要するが、出羽三山に比べて不便であり、公共交通機関などアクセス改善を望んでおきたい。

今回の取材では、致道博物館兼松ヶ岡開墾記念館の酒井忠久館長（旧庄内藩主第 18 代当主）、に大変お世話になりました。同館を始め、開墾場構内の主要な施設をご丁寧にご案内頂き、いろいろご教示頂いた上、この記事用の写真等もご提供頂きました。ここに記して厚く感謝致します。

◇所在地：〒 997 - 0158 山形県鶴岡市  
羽黒町松ヶ岡 29

◇電 話：0235-62-3985

◇アクセス：JR 鶴岡駅から車で約 20 分

◇開館時間：9:30 ～ 16:00

◇休館日：月曜日、12 月～ 3 月

## 蚕の語源について

東京農工大学農学部蚕学研究室

准教授 横山 岳

### 新年を迎えて、先ず「蚕」の語源について

小学生によく「蚕はなんで“カイコ”っていうの？」と尋ねられる。「蚕」の語源は何か。もともと「蚕」は“コ(ko)”と発音していた。そして、「飼う蚕」“カウ(kau)コ(ko)”が訛<sup>なま</sup>って“カイコ(kaiko)”と呼ばれるようになったらしい(絹 I / 伊藤智夫)。

「蚕」は今でも“コ”と発音することがある。農家で飼われている普通の模様の蚕(図1)を「形蚕」“カタコ(kata ko)」、斑紋の無い蚕(図2)を「姫蚕」“ヒメコ(hime ko)”と呼んでいる。蚕のことを「お蚕様」“オコサマ(o ko sama)”と呼ぶ農家もある。

昔々、720(養老4)年に書かれた日本書記に次のような記述がある(日本文学電子図書館 Hp より)。

「雄略天皇六年(壬寅四六二)三月丁亥(七)三月辛巳朔丁亥。天皇欲使后妃親桑以勸蚕事。爰命蜾蠃くわら。人名也。此云須我屡。聚国内蚕。於是蜾蠃誤聚嬰兒、奉獻天皇。天皇大咲。賜嬰兒於蜾蠃曰。汝宜自養。蜾蠃即養嬰兒於宮墻下。仍賜姓為少子部連。

(現代語訳)

雄略天皇は皇后に養蚕を勧めようと思い、家臣のスガルに命じて国内の蚕(コ)を集めるように指示した。しかしスガルは間違えて児(コ)を集め、天皇に献上した。天皇は笑って、子供をスガルちいさこべのむらじに養わせ、スガルに少子部連の姓を賜ったという。

このことから古代の日本語では「蚕」と



図1：形蚕：斑紋が有る蚕



図2：姫蚕：斑紋が無い蚕

「児(子)」の発音が同じ“コ(ko)”であったことが分かる。雄略天皇は中国の歴史書の「宋書」に「倭の五王」の中の「倭王武」とされるヤマト王権の初期の天皇と言われており、5世紀頃であろうか。ちなみに埼玉県行田市の稲荷山古墳から出土した国宝「金錯銘鉄剣」に金の文字で「獲加多支鹵大王」と記されているのが雄略天皇ではないかとのこと。

### 次に「飼う蚕」の語源

次に「飼う蚕」と言うようになったのはいつか？ 8世紀中頃(奈良時代)に成立した万葉集には4千5百首もの歌があり、その中にいくつかの桑・蚕・糸・織などを詠った歌がある。山口大学の吉村誠研究室に万葉集のデータベースがあり、そこで調べてみると、

- 「桑」に関する和歌：3首
- 「蚕」に関する和歌：3首
- 「繭」に関する和歌：4首
- 「糸」に関する和歌：9首
- 「絹」に関する和歌：5首
- 「織」に関する和歌：22首
- 「綿」に関する和歌：38首
- 「衣」に関する和歌：180首以上

歌聖と呼ばれ、万葉集の篇者の一人である柿本人麻呂かきのもとのみとまるが嬉しいことに蚕の歌を1首詠んでいる。

足常 母養子 眉隠 隠在妹 見依鴨

(巻11-2495)

たらつねの 母が養ふ蚕の 繭隠り  
隠れる妹を 見むよしもがも

たらつねの ははがかふこの まよごもり  
こまれるいもを みむよしもがも

「養う蚕」を“カフ コ(kau ko)”と発音している。「飼う」ではなく「養う」を使っているのは何故かと、同僚の歴史学の高橋美貴准教授に尋ねたところ、母の子どもと母の蚕をかけた歌なので、あえて「養」という漢字を使って、それを「かう」と読ませているのではないか。また、もちろん、「飼」の字が正しいわけだが、言葉遊びの粋さを追求すると、こんな感じになるのではないかと教えていただいた。

ちなみにあと2首は

作者不明

乳根之母我養蚕乃眉隠馬聲蜂音石花蜘蛛荒  
鹿異母二不相而 (巻12-2991)

たらちねの母が飼ふ蚕の繭隠り  
いぶせもあるか妹に逢はずして

これは柿本人麻呂の歌によく似ている。私の勝手な推測だが、柿本人麻呂はこの歌をみて、詠み人知らずの歌だが添削すればもっと良くなる、または自分だったらこう詠むと作り変えたのではなかろうか。

作者不明

荒玉之年者来去而玉梓之使之不来者霞立長  
春日乎天地丹思足椅帶乳根笑母之養蚕之眉  
隱氣衝渡吾戀心中人丹言物西不有者松根松  
事遠天傳日之闇者白木綿之吾衣袖裳通手沾  
沼（卷 13-3258）

あらたまの年は来ゆきて玉梓の使の来ねば  
霞立つ長き春日を天地に思ひ足らはしたら  
ちねの母が飼ふ蚕の繭隠り息づきわたり我  
が恋ふる心のうちを人に言ふものにしあら  
ねば 松が根の待つこと遠み天伝ふ日の暮  
れぬれば白栲の我が衣手も通りて濡れぬ

いずれの3首も「飼う蚕」「カウコ (kau ko)」と呼ばれている。山口大のデータベースで「蚕」の検索で引っかかってこないが、次の歌も「蚕」ではないかとも言われている。

作者不明

尔比牟路能 許騰伎尔伊多礼婆 波太須酒  
伎 穂尔互之伎美我 見延奴己能許呂（卷  
14-3506）

新室のこどきに至ればはだすすき穂に出し  
君が見えぬこのころ

「許騰伎」が「蚕時」ではないかとの説である。「蚕時」とは何時だろうか？ 給桑の時刻のことだろうか？ または蚕期のことだろうか？ ともあれ、蚕を自由に孵化させることができなかつた時代にススキの

穂が出た頃、晩秋に養蚕とは少々考え難いが。万葉集の歌は発音と漢字の意味が合っていないので、「コ」の発音を持つ歌を探すともっと蚕に関する歌が見つかるのかもしれない。

では「飼う蚕」「カウコ (kau ko)」から「蚕」「カイコ (kaiko)」になったのはいつ頃だろうか。平安時代に書かれたと言われている日本最古の本草書（薬物辞典）「<sup>ほんぞう</sup>本草<sup>わみょう</sup>和名」では「加比古」と書かれている。「加比古」は「カヒコ (kaiko)」の発音である。「比」は現在“ひ”だが、昔の発音は“イ (i)”だそう。平安時代には“カウコ”が訛って“カイコ (kaiko)”と発音されるようになったようだ（もっと古い記録があれば是非お教えください）。「本草和名」は国立国会図書館デジタルコレクションで web 上で読むことができる。

### 薬の本に載っている蚕

薬の本に蚕が載っているということは、蚕を何かの薬に使っていたということである。2か所、「加比古（蚕）」が載っている。

その一つが「蚕沙」であり、「加比古乃久曾」と書いてある。これはその発音通り「蚕の糞」だろう。薬効は胃が治るとか。蚕糞は蚕が桑の葉を細かく砕いて呑み込み、3割ほどが吸収され、残りは固められて排泄されたもの、つまり細かい桑の葉である。「蚕糞」「桑葉」ともに現在も漢方薬として使われているらしい。桑には1-デオキシノジリマイシン (DNJ) という糖に似た物質が含まれており、血糖値の急激な上

昇を抑えることがよく知られている。血糖値を上手くコントロールできない糖尿病患者には有り難い物質である。

もう一つが「白僵蚕」。白きょう病にかかった蚕のことだろう（図3）。ボーベリア菌（*Beauveria bassiana*）というカビに蚕が感染すると死亡し、死骸は硬くなり、白い胞子を皮膚からだすようになる。蚕を飼っているとよく見かけるものである。硬化病の一種で死骸は硬く、白い蠟燭のようになる（図4）。「本草和名」では何に効くか書いていないが、現在でも漢方薬に使われている。富山大学の伝統医薬データベースによると「鎮瘧，鎮痛薬として，小兒

瘧<sup>けいれん</sup>，扁桃炎<sup>へんとう</sup>，頭痛，歯痛のほか，中風による言語障害，半身不随などに内服する。外用としては，湿疹，潰瘍<sup>かいよう</sup>などの皮膚病の癩痕<sup>はんこん</sup>を消すのに用いる。」とのこと。ただし、薬理作用は未詳。

桑樹の害虫キボシカミキリが桑樹に白く硬くなっているのを時々見かけることがある（図5）。白きょう病の病原のボーベリア菌の近縁の *Beauveria Brongniartii* が感染したものである。この菌を使ったカミキリを駆除する生物農薬が開発され、実用化されている。同じボーベリア菌だが、カミキリだけに効き、蚕には効かないのでご安心を。



図3：白きょう病に罹り胞子に覆われた蚕



図5：ボーベリア菌に感染したキボシカミキリ



図4：白きょう病に罹り硬くなった蚕の死骸

## 蚕糸・絹織物に関係する神社

山形県米沢市に「白子神社」がある。<sup>しらこ</sup>712(和銅5)年に創建という古い神社である。養蚕に関わりのある神社で、かつては「白蚕神社」とも呼ばれたとか。ここでも「子」=「蚕」である。わざわざ白い蚕の神社と呼ばれているので、「真っ白な姫蚕」のことか。昔は黄色い繭が多かったので珍しい「白い繭」が取れたことで、「白蚕ではないでしょうか」と黄色俊一<sup>おうしきとしかず</sup>東京農工大学名誉教授に伺ったところ、「葉になるから白きょう蚕の白蚕かもしれないよ」とのこと。数年前に白子神社を訪れたが、残念ながら詳細は不明であった。

各地には蚕糸・絹織物に関係する神社が多くある。行き易そうな神社をあげてみた。初詣に行かれては如何だろうか？

白子神社：山形県米沢市城北2丁目3-25

蚕養国神社：福島県会津若松市蚕養町2丁目1

織姫神社：栃木県足利市西宮町3889

白滝神社：群馬県桐生市川内町5丁目3288

咲前神社：群馬県安中市鷺宮3308

蚕霊神社：茨城県神栖市日川720

蚕影神社：茨城県つくば市神郡2056

蚕養神社：茨城県日立市川尻町2丁目2377-1

秩父神社：埼玉県秩父市番場町1-3

蚕影神社：埼玉県児玉郡神川町字二ノ宮750 金鑽神社内

金色養蚕大明神：東京都台東区松が谷1-14-6 池の妙音寺内

蚕影神社：東京都立川市砂川町4-1-1 阿豆佐味天神社内

機守神社：東京都八王子市大谷町1019-1 大善寺内

蚕影神社：長野県上田市国分1233

犬頭神社：愛知県豊川市千両町糸宅107

服織神社：愛知県豊川市足山田町滝場31

<sup>わくぐり</sup>繰神社：愛知県豊川市東上町権現1

蚕の社(木嶋坐天照御魂神社)：

京都府京都市右京区太秦森ヶ東町50

金刀比羅神社：京都府丹後市峰山町泉1165-2

「蚕影(山)神社」は、江戸時代に茨城県つくば市の蚕影神社から各地に分祀されたものなので、上記に書ききれないほど各地にある。明治初期の廃仏毀釈時に大きな神社に合祀され、現在では分からなくなっているものも多くある。貴方(女)の町にも気が付かれず小さな祠となつてあるかもしれない。また、諏訪周辺では蚕糸業が盛んであったが、「蚕玉様」<sup>こだまさま</sup>という石を信仰していたようで、蚕糸業に関する神社は意外に少ない。また、全国各地にある「倭文神社」<sup>しとり</sup>は古い機織りの神社だそう。養蚕業が盛んなころはどこの神社でも養蚕のお札をいただけたようだが、現在では残念ながら会津若松市の「蚕養国神社」、つくば市の「蚕影神社」しかいただけないようである。蚕を飼うのが下手な筆者はお札を貰って神頼み。

## ■横山岳(よこやま・たけし)の紹介

東京農工大学農学部

生物生産学科蚕学研究室

〒183-8509：東京都府中市幸町3-5-8

TEL：042-367-5681

FAX：042-367-5786

E-mail：ty.kaiko@cc.tuat.ac.jp

HP：http://www.tuat.ac.jp/~kaiko

## 遺伝子組換えカイコによる高機能シルクの生産

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

上級研究員 飯塚哲也

蛍光タンパク質含有シルク、いわゆる「光るシルク」を代表とする高機能シルクの本格的な生産が、まもなく始まろうとしている。図1に示したのは、緑色蛍光シルクを用いて制作されたウェディングドレスである。通常の光で見るとほんのり黄緑色に見えるが、青色の光を当てて、青色をカットするフィルターを通してみると、幻想的に緑色に光る。このドレスは、2016(平成28)年7月20日に、Yumi Katsura Grand

Collection in Osaka で発表された。同ドレスは、2016 浜ちりめん白生地求評展示会においても好評を博した。現在のところ、蛍光シルクは試作段階で販売されていないが、緑色蛍光シルクに関しては、すでに国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(以下「農研機構」という。)と群馬県蚕糸技術センターにおいて条桑育による試験飼育が始まっており、養蚕農家での飼育が間近に迫っている。



図1：緑色蛍光シルクによるウェディングドレス  
左：自然光、右：青色LEDを照射し、黄色フィルターを通して撮影  
協力：ユミカツラインターナショナル、浜縮緬工業協同組合

---

---

## カイコの動物としての特徴

カイコは、完全に家畜化された動物であるといわれており、人間の世話なしに生きていくことができない。カイコ蛾は飛翔能力を無くしており、幼虫はエサが無くなっても自ら探し回ることがない。これらの特徴は、養蚕に役立っているとともに、遺伝子組換えカイコの管理を容易にしている。カイコは、糸を大量に生産するように育種されてきており、繭糸量は多いもので0.5g、長さは1,000 mをゆうに越す。カイコの吐く糸は、そのほとんどがタンパク質でできており、カイコはタンパク質を大量に生産するように改良されてきたとも言える。

カイコが吐いた繭糸は、繊維状タンパク質であるフィブロインとのり状のタンパク質であるセリシンからなっている。生糸はセリシンが残っているため硬くごわごわしているが、界面活性剤やアルカリ溶液により精練を行い、セリシンを取り除くと、柔軟で光沢のある絹糸となる。

繭糸は、<sup>けんしせん</sup>絹糸腺と呼ばれる器官で作られる。絹糸腺は前部、中部、後部絹糸腺に分けられ、フィブロインは<sup>こうぶ</sup>後部絹糸腺、セリシンは<sup>ちゅうぶ</sup>中部絹糸腺で分泌される。後部絹糸腺で分泌されたフィブロインは中部絹糸腺へと送られ、いったん中部絹糸腺に蓄えられる。中部絹糸腺では、フィブロインを取り囲むようにセリシンが分泌される。絹糸腺内では、繭糸は液状であり液状絹と呼ばれている。液状絹は、前部絹糸腺を通り<sup>としこう</sup>吐糸口から吐糸されると繭糸となる。

## 遺伝資源とカイコの育種

家畜化されたカイコは、世界各地でその土地の風土にあわせて育種改良され、多くの地理的品種が生み出された。農研機構の遺伝資源センターでは、世界各地から収集された約3,000種の地理的品種を保存している(<http://www.naro.affrc.go.jp/ngrc/>)。地理的品種は日本種、中国種、欧州種、熱帯種に大きく分けられ、さらに、大正時代(1911年)より以前の在来種と在来種を基に品種改良して育成した改良種に区別されている。農研機構には、その他に約200種の突然変異系統が保存されている。突然変異系統とは、カイコの長い歴史の中で発見された変わり種のこと、繭の色、幼虫の斑紋などに特徴がある。九州大学は、突然変異系統を中心にナショナルバイオリソースプロジェクト(<http://silkworm.nbrp.jp/>)として約500系統のカイコ系統を分譲している。カイコの卵は長期保存することができないため、年に一度は飼育して継代する必要がある。

近年、国内の養蚕業は衰退し単に生糸を増産することができる多糸量品種ではなく、消費者のニーズや製品化されたときに差別化できる高品質で特徴のあるカイコ品種が求められている。例えば、遺伝資源として保存されている「<sup>あおじゆく</sup>青熟」、「<sup>こいしまる</sup>小石丸」や「<sup>またむかし</sup>又昔」などの在来種が、ブランド素材として注目されている。これらの品種は江戸時代に成立し、昭和に入ってもなお飼育されていた品種である。当時は飼育の容易さや繭糸質が、評価されていたのだと考えら

---

---

れる。しかしながら、現在では繰糸試験の成績にこれといった特徴があるわけではなく、飼育しやすいとはいえない。ただし、織物にしたり染色したりして初めて独特の風合いが出るという評価がある。

他には、繭糸織度に特徴のある品種がある。アウターやニット製品に向けた太織度品種としては、繭糸織度が4d(デニール)を超える「蚕太<sup>さんた</sup>」や「ありあけ」がある。

一方、細織度品種の繭は繰糸する際の粒付数が多くなることから、織度偏差の少ない高級生糸が繰糸できるとされている。繭糸織度2d前後の品種としては「あけぼの」、「ぐんま細<sup>ほそ</sup>」、近年さらに細く、極細品種<sup>ごくほそ</sup>と呼ばれる1.6d前後の「はくぎん」や「極細1号<sup>はくれい</sup>」、「白麗」が育成されている。

その他の特徴のある品種としては、「いろどり」、「ぐんま黄金<sup>こがね</sup>」などの着色繭品種、セリシンのみからなる繭を作る「セリシンホープ」、玉繭を多く作る品種<sup>しゅりまる</sup>「珠里丸」や「玉小石<sup>たまこいし</sup>」がある。2頭で1個の繭を作ったものが玉繭で、玉繭を一定の割合で混ぜて繰糸した玉糸は、ランダムな節が多くみられ趣があり、紬や特徴のある織物に用いられて人気が高い。しかしながら、繭生産量の減少に伴い原料となる玉繭の入手が困難になっている。「珠里丸」は、数頭で1つの繭<sup>りゅうきゆうたさんけん</sup>を作る性質を持つ「琉球多蚕繭」より育成された品種である。

このように、多様な遺伝資源を元に多くの品種が育成されている。しかしながら、育種には時間がかかるとともに遺伝資源には限りがある。そこで、画期的な育種法と

して注目されているのが遺伝子組換えである。遺伝子組換え技術を用いると、カイコ以外の生物から得られた有用な遺伝子をカイコに導入することができるうえ、比較的短期間で新たな品種を作り出せる可能性がある。

## 遺伝子組換えカイコの作出

遺伝子組換えカイコは、2000(平成12)年に農業生物資源研究所(現農研機構)の田村俊樹らにより開発された。遺伝子組換えカイコを作出するには、導入したい遺伝子を含む溶液をカイコの卵にガラス製の極細の注射針を用いて注入することによる。ただし、カイコの卵の殻は硬いため、ガラス製の注射針を直接に挿入しようとしても折れてしまう。そこで、金属製の針でいったん卵殻に穴を開け、同じ穴にガラス製の注射針を挿入し遺伝子を含む溶液をカイコの卵に注入している。初めて作出された遺伝子組換えカイコは、蛍光タンパク質を全身で発現させた全身が光るカイコであった<sup>1)</sup>。蛍光タンパク質とは、ある特定の波長<sup>れいき</sup>(励起光)を照射すると、蛍光を発するタンパク質のことで、オワンクラゲで発見された緑色蛍光タンパク質であれば、青色の光を照射すると緑色に光る。オワンクラゲの他にもウミシイタケ、イソギンチャク、サンゴ、カイアシなどの生物から、様々な蛍光タンパク質が発見されている。さらに、得られた蛍光タンパク質を改変することにより、様々な色や用途の蛍光タンパク質が生み出されている。

---

---

その後、導入遺伝子を制御する技術が開発され、視神経でのみ働くように遺伝子を導入したり、絹糸腺でのみ遺伝子が働くように導入したりすることが可能となった。視神経で蛍光タンパク質を発現させれば、眼が着色し、遺伝子組換えカイコを見分けるのが容易となるので、遺伝子組換え体であることを示すマーカーとして良く用いられている<sup>2)</sup>。

遺伝子組換えカイコの利用は、大きく分けて2つの方向がある。一つは、タンパク質生産能力の高さを活かして、医薬品などの有用物質を生産させる「有用物質生産」。もう一つは、生糸に新たな機能性を付加する「高機能シルク」生産である。中部絹糸腺で導入遺伝子を発現させると、セリシン中に外来タンパク質を作ることができる。セリシンはのり状タンパク質であり比較的容易に水に溶けるため、有用タンパク質を生産させて回収するのに都合が良い。一方、後部絹糸腺でフィブロインに融合するように外来タンパク質を発現させると、機能性を付与した機能性繭糸の作出が可能である。フィブロインに融合するように蛍光タンパク質を発現させた繭糸が、蛍光シルクである。

### 様々な高機能シルク

初めて作出された高機能シルクは、緑色蛍光タンパク質をフィブロインと融合するように発現させた緑色蛍光シルクである<sup>3)</sup>。この緑色蛍光シルク系統は、w1-pndという実験系統で作出された。この系統は、

眼や卵殻が着色しないため遺伝子組換えカイコであることを示すマーカーを観察しやすく、非休眠卵を産卵するため、遺伝子組換えカイコの作出に向いている。しかしながら、繭が小さく繰糸することが困難であった。そこで、繰糸可能なように「ぐんま200」の原種の日本種である「ぐんま」と中国種の「200」を複数回<sup>もと</sup>戻し<sup>こうはい</sup>交配を行い、品種改良を行った。また、蛍光タンパク質は熱に弱いため、通常の乾繭、煮繭、繰糸工程では色がなくなってしまう。そのため、60℃以下で煮繭を行う真空煮繭法を開発した。すなわち、界面活性剤の入った弱いアルカリ溶液（薬液）に繭を沈めて脱気し、薬液を繭中に入れる。次にゆっくりと復圧を行った後、薬液中から繭を取り出し再度減圧を行い、繭中の薬液を吐水させる。その後、薬液に沈め減圧することで繭中に薬液を入れる方法である。これにより、繭層の糸がほぐれ、糸を引き出すことができるようになった<sup>4)</sup>（図2）。今では、緑色蛍光タンパク質の他、赤色、オレンジ色、青色などの蛍光シルクが開発されている。蛍光シルクの特性に合わせた撚糸、精練、製織などの加工法が開発されたことで、ニット製品、ウェディングドレス、和装品などの試作が行われた（図3）。

蛍光シルク系統の他の高機能シルク系統として、高染色性系統がある<sup>5)</sup>。この系統は、染色液への反応性が良くなるような遺伝子を導入したもので、同じ条件で染色すると通常のシルクと比較して良く染まる。さらには繭糸が細くなることが分かったた

め、現行の実用品種で最も細い糸を吐く「はくぎん」（中514号×中515号）の原種である中514号に遺伝子の導入を行ったところ、「はくぎん」よりも約10%繭糸が細くなった。

また、絹糸の物理的な性質を強化しようとして着目したのがクモ糸である。クモ糸は、強いだけでなく柔軟性があり、強靱な繊維として知られている。クモ糸シルクは、オニグモの懸垂糸のフィブロイン遺伝子の一部をカイコに導入したもので、導入する前と比較して50%強靱さ（強度）が上昇した<sup>6)</sup>。クモ糸シルクは、強靱なタンパク質繊維として、服飾用途のみならず工業用途にも注目を集めている。



図2：緑色蛍光シルクを繰糸している様子。青色LEDを照射し黄色フィルターを通して撮影した。

## 養蚕農家での遺伝子組換えカイコの飼育に向けて

遺伝子組換え生物の利用は、「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」（以下「カルタヘナ法」という。）により規制されている。カルタヘナ法では、生きたままの組換え生物を野外に出さないように拡散防止措置を執った飼育・栽培を行う「第二種使用」と、拡散防止措置を執らない「第一種使用」が定められている。すでに商業化されている遺伝子組換えカイコによる有用物質生産は、企業が所有する飼育室や稚蚕共同飼育所<sup>ちさん</sup>における第二種使用で行われている。第二種使用による飼育は、食べ残しや糞などを廃棄する際には、遺伝子組換えカイコの混入が否定できないことから、高圧蒸気滅菌などの処理が必要である。そのため、養蚕農家における条桑育では、第二種使用



図3：蛍光シルクを用いて試作した和装品きもの（長浜ちりめん）：緑色蛍光シルク、赤色蛍光シルク使用（協力：浜縮緬工業協同組合）。名古屋帯：緑色蛍光シルク、赤色蛍光シルク、橙色蛍光シルク使用（協力：滋賀県東北部工業技術センター）。帯締め：緑色蛍光シルク使用（協力：株式会社 龍工房）

は非現実的である。高機能シルクを生み出す遺伝子組換えカイコの飼育は、コスト面や量産性から養蚕農家による飼育が望まれており、第一種使用による飼育が不可欠である。

カルタヘナ法の第一種使用による飼育・栽培は、生物多様性への影響のおそれがないことが専門家による審査で認められ、所管大臣の承認を受けた場合に限り可能となる。そこで、緑色蛍光シルクを産生する遺伝子組換えカイコ系統に関して生物多様性影響を調査し申請を行ったところ、農研機構の隔離飼育区画（茨城県つくば市）において幼虫期の途中から繭まで試験飼育することについて承認を受けた（2014（平成26）年5月2日、農林水産大臣・環境大臣）。続いて、同じ系統について、群馬県蚕糸技術センターの隔離飼育区画で同じように試験飼育するための承認を受けた（2015（平成27）年5月）。農研機構に設置されている隔離飼育区画は、面積が2,100㎡で周囲は関係者以外の立ち入りを制限するためフェンスで囲まれており、中に設置されているプレハブ製の蚕室は79㎡で、一度に2万頭の飼育が可能である。養蚕農家での飼育と同様、条桑育で飼育を行い回轉族かいてんぞくで上簇じょうぞくさせている（図4）。残渣は、ネットをかけることで、遺伝子組換えカイコが混入していたとしてもクワコとの交雑が起きないように管理している。群馬県蚕糸技術センターの隔離飼育区画には、ビニールハウス蚕室と、プレハブ蚕室が設置されており各6万頭、合計12万頭

の飼育が可能である（図5）。残渣は、チッパーによる粉碎処理を行うことで減容し堆肥化している。カイコが仮に残渣に混入していても、チッパーにより粉碎処理を行うと死亡することが確認されている。

緑色蛍光シルクに加え、農研機構と群馬県蚕糸技術センターの両方の隔離飼育区画において高染色性シルクを産生する遺伝子組換えカイコの飼育試験が行われている。群馬県蚕糸技術センターにおいては、さらに橙色蛍光シルクと青色蛍光シルクを産生するカイコの試験も行われている。



図4：農研機構の隔離飼育区画での遺伝子組換えカイコを飼育している様子。



図5：群馬県蚕糸技術センターの隔離飼育画内に設置されているビニールハウス蚕室の内部。

---

---

## 更なる発展への取組みへ

遺伝子組換えカイコを第一種使用で飼育する場合、一番懸念されているのは、カイコの近縁野生種であるクワコとの交雑により、生物多様性への影響が生じないかという点である。農研機構の隔離飼育区画において、緑色蛍光シルクを産生する遺伝子組換えカイコの飼育は3年間行われた。隔離飼育区画の周囲に、クワコをとらえるトラップを設置し、クワコと遺伝子組換えカイコとの交雑が起きていないかモニタリング調査を行っているが、これまで交雑個体は見つかっていない。また、カイコを飼育している養蚕農家の周辺を始めとする日本各地からクワコを1万頭近く採集して調査した結果、カイコとクワコの雑種は見つからなかった<sup>7-9)</sup>。その要因として、養蚕農家はカイコの繭を出荷し、製糸工場ではすぐに乾繭するため、成虫を生じさせないようにしていることや、屋外に出たカイコは逃げることができずに鳥や昆虫に食べられてしまうことなどが考えられている<sup>9-10)</sup>。

現在、これらの情報を積み上げることで隔離飼育区画だけではなく、養蚕農家において、遺伝子組換えカイコを飼育する取り組みがなされている。緑色蛍光シルクを産生する遺伝子組換えカイコに関しては、数年内に養蚕農家における飼育が実現するかもしれない。当然のことであるが、遺伝子組換えカイコの養蚕農家での飼育がゴールではない。これを皮切りに、海外にはない新たな高機能シルクを世に出し、新たな蚕糸絹業の幕開けとしたい。

## 引用文献

- 1) Tamura, T. et al. (2000) *Nat. Biotech.* 18:81-84.
- 2) Thomas, J.L. et al. (2002) *Biochem. Mol. Biol.* 32:247-253.
- 3) Kojima, K. et al. (2007) *Biosci. Biotechnol. Biochem.* 71:2943-2951.
- 4) Iizuka, T. et al. (2013) *Adv. Funct. Mater.* 23:5232-5239.
- 5) 田村俊樹ら (2009) *農林水産技術研究ジャーナル* 32:7-10.
- 6) Kuwana, Y. et al. (2014) *PLOS ONE* 9:e105325.
- 7) Yukuhiro, K. et al. (2012) *Genes Genet. Syst.* 87:331-340.
- 8) Yukuhiro, K. et al. (2012) *J. Insect Biotechnol. Sericol.* 81:29-35.
- 9) Kōmoto N. et al. (2016) *J. Insect Biotechnol. Sericol.* in press.
- 10) 河本夏雄ら (2014) *蚕糸・昆虫バイオテック* 83:171-179.

## ■飯塚哲也 (いづか・てつや) の紹介

国立研究開発法人

農業・食品産業技術総合研究機構

生物機能利用研究部門新産業開拓研究領域

カイコ機能改変技術開発ユニット

〒305-8634 つくば市大わし1-2

TEL 029-838-6091

FAX 029-838-6028

E-mail: tiizuka @ affrc.go.jp

HP: <http://www.naro.affrc.go.jp/nias/introduction/chart/0202/index.html>

# イベント情報

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
純国産絹製品の紹介	（小倉商店） 出展者は、結城紬の織元問屋で「風土31研究会」を立ち上げ、養蚕農家から真綿商、小倉商店までが一体となって純国産結城紬の生産販売を行っている。蚕種は結城紬に適した朝・日×東・海を用い、結城紬の技術保存を目指しています。	平成29年1月10日（火）～27日（金） 10：00～18：00	<主催> ジャパンシルクセンター 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館1階 TEL：03-3215-1212 FAX：03-3214-1700 休館日：土、日、祝日
	（榭屋高尾） 出展者は、西陣の染織家で、製織技法において綜縞・箆等独創の技法で古来の技を正直に再現し国産の上質の糸を密に使って、急いだりせず、コツコツと手織で織り上げなければできない世界を表出した究極の帯を提供しています。	平成29年2月13日（月）～2月24日（金） 10：00～18：00	
	（窪田織物） 出展者は、大島紬の本場鹿児島で永年培われてきた技術を基に研鑽、改良を加え、経緯糸にぐんま200の生糸を使用し大島紬をしっとりとした風合いで織り上げ、従来より高級感のある製品を製織しています。	平成29年3月1日（水）～3月24日（金） 10：00～18：00	

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
純国産試作品展 示会	蚕糸・絹業提携グループの技術を活かした新分野の製品を開発し、各グループの今後の販路拡大に結び付けるため、試作品を創作した。また、各グループがコラボレーションすることで、お互いの強みを発揮した作品や復刻デザインによる作品等の展示。	平成 29 年 2 月 6 日（月）～10 日（金） 10：00～18：00	<主催> 蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 3-5-4 M・S-2 ビル <会場> ジャパンシルクセンター 〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 1 階 TEL：03-3215-1212 FAX：03-3214-1700
第 76 回特別展「かいこが紡ぐことばと生活展」	「身上（家財、財産）をつくるのもつぶすのも蚕」といわれた程、蚕は群馬の農村経済を支える柱であり、人々は蚕を大切に「オコサマ」「オカイコサマ」「オカイコ」と尊称で呼んできました。本展では、群馬県そして日本全国の養蚕業について理解度を深めていただくために、養蚕によって生まれた「養蚕ことば」を視覚化して紹介します。	平成 28 年 12 月 10 日（土）～平成 29 年 2 月 5 日（日） 9：30～17：00	<主催> 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1 TEL：027-360-6300 休館日：毎週火曜日 （12/6～9, 13, 20） 年末年始の休館 （12/27～31、1/1～2, 4, 5）
「群馬の絹展」	ぐんまの繭、生糸を使用した和装品や洋装品、工芸品などの絹製品の展示と販売を行い、県民をはじめ、県内外の関係者、消費者に紹介して、「群馬の絹」を宣伝し、需要拡大に結び付けます。	平成 29 年 2 月 9 日（木）～2 月 14 日（火） 9：30～17：00	<主催> 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1 TEL：027-360-6300 休館日：毎週火曜日

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
第77回特別展「繭クラフトと絹の作品展」	繭の特性をいかしたまゆクラフト作品（一般公募）と伝統技法等を駆使した工芸作家の創作品及び友の会会員のバラエティーに富んだ染織作品を一挙公開します。繭、絹の持つ素晴らしさを感じてください。	平成29年2月18日（土）～4月9日（日） 9:30～17:00	<主催> 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 TEL:027-360-6300 休館日:毎週火曜日
【冬企画】 「シルキーウィ ンターフェステ イバル」	若い世代を含めたより多くの方々にシルク博物館やシルクセンターに来ていただき、楽しくシルクへの理解を深め、シルクに関わる産業の振興を図ることを目的として、横浜輸出スカーフを展示します。	平成28年12月3日（土）～平成29年1月9日（月・祝） 9:30～17:00	<主催> シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地 シルクセンター2階 TEL:045-641-0841 休館日:月曜日 年末年始（12月28～1月4日） ※祝日の場合は翌日
東京農工大学科学博物館創基130周年企画展 収蔵品展 博物館黎明期と 蚕病教育	東京農工大学科学博物館は今年創基130周年を迎えました。当館の歴史は明治19（1886）年、東京農工大学工学部の前身である農商務省蚕病試験場の「参考品陳列場」にはじまります。当館の収蔵品には古くからの展示物や展示ケースが残されており、当時の博物館教育活動を知る貴重な学術資料となっています。本展示では、資料の中から蚕病関連資料に焦点を当ててご紹介いたします。	平成28年11月1日（火）～平成29年3月31日（金） 10:30～17:00 （入館は16:00まで）	<主催> 東京農工大学科学博物館 〒184-8588 東京都小金井市中町2-24-16 TEL:042-388-7163

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
<p>絹のある生活 —岡谷シルク再 発見—</p>	<p>きものが日常着だった頃、絹・シルクは今よりずっと身近で生活に密着したものでした。生まれて初めて着る産着や、普段着の手紡ぎのきもの、また婚礼や祝い事など特別な日には、染や刺繍が施された豪華な絹衣裳をまとっていました。岡谷は製糸の街であり、多くの人が生糸づくりに関わってきました。また自家用に繭から糸をつくり、手織のきものを仕立てた記憶を持つ人も少なくありません。今回の展示では、かつて岡谷で着られていた絹衣装を展示するとともに、今製糸工場で作られている生糸が布になるまでの工程を紹介しながら、現代の絹製品としても利用されている絹を紹介します。素材としての絹の素晴らしさを再発見し、過去から現在、そして未来へ向かう「絹のある生活」を展望します。</p>	<p>平成 28 年 11 月 3 日（木）～平成 29 年 1 月 30 日（月） 9：00～17：00</p>	<p>&lt;主催&gt; 岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田 1-4-8 TEL:0266-23-3489 休館日：毎週水曜日・祝日の翌日 11月24日、12月28日～1月4日、1月10日</p>

## 平成 28 年度第 4 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの平成 28 年度第 4 次審査委員会を平成 28 年 11 月 8 日（火）に開催しました。今回は、7 者から申請があり、新規申請者 1 者 4 品目、使用許諾されている者の 2 者が製品の追加 2 品目、履歴の追加 1 者 1 品目、数量の追加 4 者 7 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、7 者 14 品目に対し、11 月 15 日（火）付けで純国産絹マークを使用許諾する旨通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規) Noble Silk (株) 代表者名：青柳順子 (担当者：青柳順子) 〒104-0061 東京都中央区銀座 7-18-13 クオリア銀座 405 TEL：03-3542-0308 表示者登録番号 219	ニット (インナー) ニット (パンツ) ニット (ひざ掛け) ニット (ジャケット)	40着 10着 20枚 20着	蚕品種：ぐんま 200 繭生産：JA 前橋市管内養蚕農家 製糸：碓氷製糸農協 撚糸：(有)ワカタベ 染色：今井染色(有) 製編：自社 縫製・仕上：ニット青木(株)
(製品の追加) (株) マルシバ 代表者名：木下幸太郎 (担当者：野口俊二) 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 3-5-4 MS2ビル 6階 TEL：03-3662-2431 表示者登録番号 160	ネクタイ	1,000本	蚕品種：いろいろ 繭生産：埼玉県内養蚕農家 製糸：松澤製糸所 製織・加工：(株) 甲斐絹座
(数量の追加) (株) 三越伊勢丹 代表者名：大西洋 (担当者：大枝篤史) 〒160-8011 東京都新宿区新宿三丁目 14 番 1 号 TEL：03-3352-1111 表示者登録番号 187	白生地(表地)	80反	制作企画：(株) マルシバ 蚕品種：三煌 蚕種製造：(株) 高原社 繭生産：JA 上伊那・ JA みなみ信州管内養蚕農家 製糸：碓氷製糸農協 製織：芋田織物
(製品・数量の追加) 渡豊工房 代表者名：渡辺豊一 (担当者：渡辺豊一) 〒990-0301 山形県東村山郡山辺町山辺 892-1 TEL：023-664-5405 表示者登録番号 190	(製品の追加) 先染反物 (市松綾御召 (草木染め))	38反	蚕品種：錦秋×鐘和 繭生産：JA みやぎ仙南管内養蚕農家 製糸：碓氷製糸農協 撚糸：梅津撚糸工場 精練染色：自工房 製織：自工房
	(数量の追加) 先染反物 (綾御召(女物))	43反	蚕品種：錦秋×鐘和 繭生産：JA みやぎ仙南管内養蚕農家 製糸：碓氷製糸農協 撚糸：梅津撚糸工場 精練染色：佐米染色(有) 製織：自工房

<p>(履歴の追加)  (株) 榎屋高尾  代表者名：高尾朱子  (担当者：高尾朱子)  〒603-8327  京都府京都市北区北野西白梅町77番地  TEL：075-464-0500  表示者登録番号 038</p>	<p>先染帯地(袋帯)</p>	<p>120本</p>	<p>蚕品種：錦秋×鐘和  繭生産：JA高崎市管内養蚕農家  製糸：碓氷製糸農協  撚糸：昭和撚糸工業(株)  染色：(株)寺川染工場  製織：自社</p>
<p>(数量の追加)  田中種(株)  代表者名：田中隆  (担当者：田中隆)  〒541-0054  大阪市中央区南本町2-1-14  タイヨウマークビル3階  TEL：06-6261-2091  表示者登録番号 060</p>	<p>ニット  (ネックウォーマー)</p>	<p>300枚</p>	<p>繭生産：JAにっただみどり管内養蚕農家  製糸：碓氷製糸農協  撚糸：昭和撚糸工業(株)  精練：にしき染色(株)  製編：(株)森下メリヤス工場  縫製：神戸生絲(株)</p>
	<p>真綿ふとん   真綿ーフケット</p>	<p>4枚   6枚</p>	<p>(詰物)  繭生産：JA新ふくしま管内養蚕農家  真綿生産：石川彦太郎商店  (側)  繭生産：JA前橋市管内養蚕農家  製糸：碓氷製糸農協  製織：齋栄織物(株)</p>
	<p>ふとんカバー</p>	<p>6枚</p>	<p>繭生産：JA前橋市管内養蚕農家  製糸：碓氷製糸農協  製織：齋栄織物(株)</p>
<p>(数量の追加)  (株) パールトーン  代表者名：由本敏次  (担当者：青木敏和)  〒615-0044  京都府京都市右京区西院西中水町22  TEL：075-312-1121  表示者登録番号 183</p>	<p>胴裏  (パールトーン加工)</p>	<p>135枚</p>	<p>制作企画：日本蚕糸絹業開発(協)  繭生産：JA前橋市管内養蚕農家  製糸：碓氷製糸農協  製織：(有)長島織物  精練：(有)江島屋染工場  加工：自社</p>

# 提携支援センターから

## 純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧 平成28年11月8日（H28-第4次）現在

表示者登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
001	(株) 千總	京都市中京区	後染反物（振袖、訪問着、付下、色無地、色留袖、黒留袖、喪服）、胴裏
002	(株) 織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株) 丸上	東京都中央区	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）、後染帯地
005	(株) 坂本屋	茨城県土浦市	後染反物（色無地）、胴裏（灰汁浸け加工）
006	(有) 平原	福島県白河市	後染反物（色無地、黒紋付）
007	(株) 信盛堂	東京都清瀬市	後染反物（色無地、黒紋付）
008	(株) きものアイ	新潟県十日町市	後染反物（色無地）
009	(株) 上庵	岩手県北上市	後染反物（色無地、黒紋付）
010	(有) 樹（いづき）	秋田県横手市	後染反物（色無地、黒紋付）
011	(株) 銀座もとじ	東京都中央区	後染反物（作家作品）、後染帯地、先染反物（大島紬、結城紬、御召、作家作品）、先染帯地（織九寸帯、織角帯、作家作品）、白生地、和装小物（帯締、羽織紐）、八掛、胴裏
012	河瀬満織物（株）	京都市上京区	先染帯地
013	(有) 織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株) 結華	静岡県清水町	後染反物（色無地、黒紋付）
016	(株) 絹回廊	東京都中央区	後染反物（色無地）
017	(有) 琴路屋	岩手県釜石市	後染反物（色無地、黒紋付）
018	(有) 大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物（色無地、黒紋付）、後染帯地、白生地（表地）
019	丸善本店	福島県いわき市	後染反物（色無地、黒紋付）、白生地（表地）
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物（色無地、黒紋付）
021	日本蚕糸絹業開発協同組合（絹小沢（株））	群馬県高崎市	裏地（胴裏（ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま200、灰汁浸加工、トルマリン加工）、八掛、比翼地）、長襦袢地、後染反物（作家作品、紋付地）、白生地（世紀二一、上州絹星・ぐんま200、新小石丸）、後染帯地（（冬物・夏物）：うるし糸が5%を超えるもの）、寝衣（うぶ着、おくるみ）、和装小物（袱紗）
022	宮階織物（株）	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物（色無地、訪問着）、先染帯地（袋帯（草木染、唐織））
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物（有）	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地（袋帯、名古屋帯）、先染反物（御召類）、後染反物（色無地）、先染帯地（袋帯：金銀糸が5%を超えるもの）
027	(有) 織道楽塩野屋	京都府亀岡市	洋装品（マフラー、シャツ、ニット（ウォーマー、腹巻、手袋、靴下））
028	(株) 丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物（江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地）、後染帯地、白生地（表地）

表示者登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
029	(株) むらかぬ	青森県八戸市	後染反物 (色無地、黒紋付)
030	(株) 高島屋	大阪市中央区	後染反物 (振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖)、白生地 (長襦袢地、胴裏)、ニット (靴下)、風呂敷
031	(株) さが美	神奈川県平塚市	後染反物 (黒紋付 (冬用・夏用)、色無地)
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物 (色無地、黒紋付)
033	(有) 特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物 (色無地、黒紋付)
034	(株) 小いけ	山形県鶴岡市	後染反物 (色無地、黒紋付、小紋)
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物 (色無地)、白生地 (表地、胴裏、帯地)、白生地 (表地 (天蚕糸交織))、白生地 (帯地 (天蚕糸交織))、婦人用ブラックフォーマル地、長襦袢
036	(株) 四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物 (色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地 (表地)
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物 (色無地、黒紋付)
038	(株) 榊屋高尾	京都市北区	先染帯地 (袋帯)
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物 (色無地、黒紋付)、白生地 (表地)
040	(株) 越後屋	千葉県市川市	後染反物 (色無地、黒紋付)
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)、白生地 (結城紬)
042	染織家柳崇	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	染織家児玉京子	沖縄県竹富町	先染反物
044	草木染工房山村 山村多栄子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超える)、先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、ストール
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物 (紋紬、緋)、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地 (変三越、駒組))
051	やまと (株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井 (株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物 (有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和 (株)	京都市中京区	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
058	浅山織物 (株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)
060	田中種 (株)	大阪市中央区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺)、後染帯地 (九寸名古屋帯)、ニット (靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢)、真綿布団、ハーフケット、布団カバー
061	(株) 京扇	東京都中央区	後染反物 (色無地)、胴裏 (パールトーン加工)

表示者登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
062	(株) なごみや	横浜市都筑区	後染反物 (色無地、黒紋付)
063	丸池藤井 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)、八掛
064	久保商事 (株)	京都市中京区	和装小物 (帯揚、半衿)
065	加賀ゲンゼ (株)	石川県小松市	胴裏
066	千切屋 (株)	京都市中京区	後染反物 (訪問着、付下)、後染帯地
067	荒川 (株)	京都市下京区	和装小物 (帯締、帯揚)
068	第一衣料 (株)	東京都中央区	後染反物 (色無地)
069	(株) 紅輪	川崎市宮前区	後染反物 (色無地)
070	装いの道 (株)	東京都千代田区	白生地 (帯地、表地)、胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま 200、新小石丸)
071	(株) 高橋屋	岩手県一関市	胴裏 (灰汁浸加工)
072	おお又 (株)	大阪市旭区	胴裏 (灰汁浸加工)、ニット (靴下)
073	(株) 天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏 (ぐんま 200 (灰汁浸加工))、白生地 (表地)
074	(株) きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏 (パールトーン加工)
075	(株) とみひろ	山形県山形市	胴裏 (酵素精練)
076	(株) 細安	福井県福井市	胴裏 (酵素精練)
077	京和きもの (株)	神奈川県厚木市	胴裏 (酵素精練)
078	(株) まるため	長野県長野市	胴裏 (トルマリン加工、パーリー加工)
079	(株) 小川屋	群馬県前橋市	胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工)
080	(株) エムラ	山口県防府市	胴裏 (酵素精練)
081	(株) 荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏 (酵素精練)
082	(株) 牛島屋	富山県富山市	胴裏 (酵素精練)、後染反物 (小紋)
083	(株) 谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏 (酵素精練)
084	(株) 登美屋	岩手県北上市	胴裏 (パールトーン加工)
085	(株) 川平屋	愛知県豊田市	胴裏 (パールトーン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
086	丸専第一衣料 (株) (丸専きもの)	新潟県長岡市	胴裏 (パールトーン加工)
087	(株) 大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地 (胴裏、比翼地 (振袖用))、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール、ネクタイ
089	(株) あきやま	宮崎県綾町	先染反物、洋装品 (ショール、マフラー)
090	藤井絞 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)
092	(有) 結城屋	兵庫県洲本市	白生地 (表地)
093	(株) ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地 (表地)
095	(有) カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装品 (スーツ地、ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、シャツ))
097	(株) 平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、羽織紐 (男物、女物)
098	(株) 菱健	京都市中京区	後染反物 (色無地)

表示者登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
099	西野 (株)	京都市上京区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)
100	京商 (株)	鳥取県米子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
101	(株) 猪井	新潟県長岡市	後染反物 (色無地)、後染帯地
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物 (色無地)、後染帯地
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
104	(株) 絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物 (色無地)
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物 (色無地)
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物 (色無地、付下)
109	(株) 和らいふ	札幌市中央区	後染反物 (色無地)
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物 (色無地)
111	(株) 世きね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、紹九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド)
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物 (色無地)
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏 (酵素精練)、先染反物 (結城紬)
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物 (色無地)
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物 (色無地、江戸小紋)、白生地 (表地)
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地 (表地 (色無地、訪問着))
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物 (色無地、小紋、付下、訪問着)、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物 (色無地)
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物 (色無地)
125	(株) 丸十	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区	胴裏 (酵素精練)
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地 (表地用 (紋意匠))
128	大門屋	福井県大野市	白生地 (牛首紬)、後染帯地 (牛首紬)、ショール (牛首紬)
129	(株) 加藤萬	東京都中央区	和装小物 (帯揚、半衿)
130	(株) しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物 (小紋)
131	(資) 山中商店	名古屋市中区	後染反物 (小紋)
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物 (小紋)
133	西川産業 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (掛布団)
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣 (長肌着、短肌着)
136	(株) 和想	鳥取県鳥取市	後染反物 (小紋)

表示者登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
137	(株) 高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物 (小紋)
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、褌、マフラー (手織り)
139	(株) 丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物 (小紋)
140	(株) 染織館	徳島県徳島市	後染反物 (小紋)
141	(株) 京ろまん	奈良県奈良市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
142	五嶋 (株)	東京都文京区	帯締
143	(株) わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	(株) 布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏 (トルマリン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
145	(有) 明石屋	東京都調布市	後染反物 (色無地)、後染帯地
146	宮井 (株)	京都市中京区	風呂敷
147	(株) ナカノ	大分県大分市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、加賀友禅)
148	(株) 芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
149	(株) 甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、トランクス)、パジャマ、袱紗
150	(有) さいとう呉服店	千葉県市川市	後染反物 (色無地、付下)
151	(株) 西松屋	兵庫県姫路市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
152	(株) 西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
153	勝山織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)
154	(有) 石川	群馬県みどり市	後染反物 (型友禅、羽二重色無地)、先染反物 (ジャガード織)
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、ショール
157	(株) ふじや	福岡県朝倉市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物 (小紋)
159	(株) JS	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (ふとん、ふとんカバー)、洋装品 (スーツ地、コート地、スカート地、シャツ、ワンピース地)、服飾品 (スカーフ、ストール、ネックカバー、アームカバー、レッグカバー)
160	(株) マルシバ	東京都中央区	裏地 (胴裏)、和装小物 (袱紗)、ネクタイ
161	(株) みつわ	大阪府大東市	後染反物 (小紋)
162	福純織物 (株)	福岡市西区	先染帯地 (本袋男帯、八寸名古屋帯)
163	(株) 大谷屋	新潟市中央区	白生地(表地)
164	(株) 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	東京都品川区	白生地(表地)
165	(株) 染織こうげい	東京都中央区	白生地(表地)
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品 (布団、膝かけ)、ショール
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
169	(株) コノエ (そめの近江)	東京都豊島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))、ニット (靴下)
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))

表示者登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物 (置賜紬)、ストール
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物 (大島紬)、先染帯地 (大島紬)
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地 (八寸名古屋帯)
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット (腹巻、靴下)
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物 (小紋 (変一越))
182	京呉服好一 (株)	京都市北区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏 (パールトーン加工)
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物 (小紋 (変一越))
185	マテリアル ロープ 鷹	東京都練馬区	後染反物 (小紋 (変一越))
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、訪問着)、先染反物 (緋着尺)、後染帯地
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地 (表地)、帯締、羽織紐、帯締 (金銀糸が 5%を超えるもの)、ジャケット地
188	青山きもの (株) (青山きもの学院)	東京都港区	白生地 (表地、夏物表地)
189	ニット青木 (株)	東京都品川区	ニット (スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー)
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物 (綾御召 (男物、女物)、市松綾御召 (草木染め)、裏地 (紬八掛)、先染ストール)
191	(株) リンクピース	福岡市博多区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
192	(有) 新宮 (きもの宮下)	宮崎県宮崎市	後染反物 (小紋 (変一越))
193	アトリエ I T O 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	染織家 杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地
196	(株) 夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
197	(株) 嗟が野	埼玉県川越市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
198	(株) カインドウエア	東京都千代田区	ストール、ネクタイ
199	(株) 新田	山形県米沢市	後染反物 (ぼかし着尺)
200	(株) ソーホー	京都市下京区	白生地 (紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬)、後染反物 (本加賀訪問着)、先染反物 (大島紬)
201	(株) すずのき	東京都品川区	後染反物 (訪問着・色無地)
202	メーカーズシャツ鎌倉 (株)	神奈川県鎌倉市	ニット (肌着)
203	(株) 丸本岩崎	北海道函館市	裏地 (胴裏絹)
204	(株) 緒方商店 (きもの心おがた)	愛媛県八幡浜市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
205	富士新幸 (株)	山梨県都留市	真綿布団
206	(有) 浅井ローケツ	京都市中央区	後染反物 (色無地・藍染)

表示者登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
207	(有) 呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地 (変一越)
208	(株) ADESSO (きもの工房一休)	神戸市中央区	白生地 (変一越)
209	森秀織物 (株)	群馬県桐生市	先染反物 (御召)
210	(株) 龍村美術織物	京都市中京区	先染帯地 (本袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
211	(株) 長沼 (長沼静きもの学院)	東京都渋谷区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
212	(株) 国際商事	東京都板橋区	ショール
213	窪田織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬)
214	染織家 村江菊絵	東京都目黒区	先染帯地 (作家作品)
215	片倉工業 (株)	東京都中央区	ニット (靴下)
216	村田捺染加工 (有)	群馬県桐生市	ストール
217	(株) 京のきもの綾錦	京都市下京区	後染反物 (訪問着、小紋、色無地)
218	あや工房	沖縄県西原町	先染反物 (首里織)、先染帯地 (首里織)
219	Noble Silk (株)	東京都中央区	ニット (インナー、パンツ、ひざ掛け、ジャケット)

## 提携支援センター活動日誌

No. 52 (H28.11.1 ~ H28.12.31)

年月日	活動内容等
28.11.8	純国産絹マーク審査委員会 (平成 28 年度第 4 次) (東京都有楽町 蚕糸会館)
28.11.8 ~ 28.11.9	千總グループ全体ミーティングへの出席及び宮城県庁との打合せ (岩手県、宮城県)
28.11.10 ~ 28.11.11	群馬県 J A 前橋市養蚕連絡協議会養蚕研修会への出席 (千葉県)
28.11.10 ~ 28.11.11	「シルク・サミット 2016 in 奄美」への参加 (鹿児島県)
28.11.11 ~ 28.11.12	「第 55 回農林水産祭実りのフェスティバル」へ出展 (東京都豊島区サンシャインシティワールドインポートマートビル)
28.11.15	生糸製造業者との打合せ (群馬県)
28.11.25 ~ 28.11.27	「2016 伝統工芸ふれあい広場・ふくい」への参加 (福井県)

## 第5回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール出品募集

蚕糸絹産業や絹文化の維持継承とその活性化を図るため、高度な養蚕技術や経営手法を駆使して純国産絹製品の生産販売活動に携わっている蚕糸絹業提携グループ、養蚕農家又は農家団体を表彰し、その活動と成果を広く紹介して蚕糸絹業の発展に資することを目的として、下記のとおり第5回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクールを実施致します。積極的な参加をお願いします。

### 記

#### 1 開催の目的

蚕糸絹産業や絹文化の維持継承とその活性化を図るため、高度な養蚕技術や経営手法を駆使して純国産絹製品の生産販売活動に携わっている蚕糸絹業提携グループ、養蚕農家又は農家団体を表彰し、その活動と成果を広く紹介して蚕糸絹業の発展に資する。

#### 2 応募方法・応募先

応募は、出品財として蚕糸絹業提携グループ、養蚕農家又は農家団体の何れかを選択し、蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール事務局に直接郵送か、各県蚕糸主務課又は各県蚕糸絹文化活性化推進事業事務局を通じてご応募をお願いします。

3 応募期間 平成29年1月10日～平成29年3月15日まで

4 審査・表彰日 審査会：平成29年4月上旬  
表彰場所：千代田区有楽町 蚕糸会館

5 表彰内容 農林水産大臣賞1点、農林水産省生産局長賞1点  
一般財団法人大日本蚕糸会会頭賞3点

6 審査員 審査長 黄色俊一氏（東京農工大学名誉教授）ほか若干名の審査員

7 主催者 一般財団法人大日本蚕糸会、中央蚕糸協会

8 このコンクールは、平成29年度（第56回）農林水産祭参加の一環として実施します。

（問合せ先）

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館6F

一般財団法人大日本蚕糸会

蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール事務局

担当：廣瀬隆登、鈴木浩、菊池清

T E L：03-3214-3411（代）、5777（直）

E-mail: suzuki@silk.or.jp（鈴木浩）

kikuchi@silk.or.jp（菊池清）

# 蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
一般財団法人北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	011-898-2692
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館 語り部の館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ岡開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡 29	0235-62-3985
公益財団法人致道(ちどう)博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわたおりのもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
紬の里	307-0001	茨城県結城市結城 2515	0296-32-8002
本場結城紬郷土館	307-0000	茨城県結城市浦町 116	0296-32-2121
本場結城紬染織資料館「手緒里」	307-0001	茨城県結城市結城 12-2	0296-33-3111
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
おやま本場結城紬クラフト館	323-0023	栃木県小山市中央町 3-7-1 ロブレビル 1F	0285-32-6477
足利織物伝承館	326-0814	栃木県足利市通 3-2589	0284-22-3004
足利まちなか遊学館	326-0814	栃木県足利市通 1-2673-1	0284-41-8201
足利織姫神社	326-0817	栃木県足利市西宮町 3889	0284-22-0313
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992 - 1 (群馬の森公園内)	027-346-5522
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344 - 1235	027-340-6060
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地 (敷島公園バラ園内)	027-231-9875
織物参考館“紫(ゆかり)”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館(桐生織物協同組合)	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
コノドント館みどり市大間々博物館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-2211
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
ちちぶ銘仙館	368-0032	埼玉県秩父市熊木町 28-1	0494-21-2112
秩父ふるさと館	368-0044	埼玉県秩父市本町 3-1	0494-23-7300
きもの芸術館(一般財団法人国際文化きもの学会)	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ~ 8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
蚕糸科学研究所展示室	169-0073	東京都新宿区百人町 3-25-1	03-3368-4891
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989 - 2	0426-76-4064
八王子市郷土資料館	192-0902	東京都八王子市上野町 33	042-622-8939

名 称	〒	住 所	電 話
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	横浜市中区南仲通 5-60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
小千谷織物工房 小千谷織物同業協同組合	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25 小千谷市総合産業会館サンプラザ内	0258-83-2329
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 14	0257-82-4888
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村又 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	911-0802	福井県勝山市昭和町 1 - 7 - 40	0779-87-1200
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619 - 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1 - 10 - 3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
繊維学部資料館	386-8567	長野県上田市常田 3-15-1 信州大学繊維学部内	0268-21-5454
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564 - 1	0268-42-2158
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196 - 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館 (シルクファクトおかや)	394-0021	長野県岡谷市郷田 1 丁目 4 番 8 号	0266-23-3489
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618 - 4	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299 - 1	0574-28-1110
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109 - 1	0532-52-5265
豊田市稲武郷土資料館ちゅーま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
豊橋市民俗資料収蔵室	440-0021	愛知県豊橋市多米町滝の谷 34-1-1	0532-63-2026
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204 - 1	059-293-0010
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静市市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都市中京区龍池町 448 - 2 伊と幸ビル	075-254-5884
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業 (株) 内	0772-72-0307

---

---

名 称	〒	住 所	電 話
上垣守国（うえがきもりくに）養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246 - 2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)	651-0082	神戸市中央区小野浜町 1-4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製糸記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711

# 蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

## 【行政】

農林水産省  
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>  
<http://www.meti.go.jp>

## 【蚕糸絹業関係団体】

(一財) 大日本蚕糸会  
(一財) 大日本蚕糸会 ジャパンシルクセンター  
(一社) 日本絹人織織物工業会  
(一財) 日本真綿協会  
丹後織物工業組合  
西陣織工業組合  
T A F S (東京織物卸商業組合)  
K O M S (京都織物卸商業組合)  
(公財) 京都和装産業振興財団  
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会  
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

<http://www.silk.or.jp>  
<http://www.silk-center.or.jp>  
<http://www.kinujinsen.com>  
<http://www.mawata.or.jp>  
<http://www.tanko.or.jp>  
<http://www.nishijin.or.jp>  
<http://www.tafs.or.jp>  
<http://www.fashion-kyoto.or.jp>  
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>  
<http://www5.somard.co.jp>  
<http://takaraginu.com>

## 【大学・試験研究機関】

(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 <http://www.naro.affrc.go.jp>  
(国) 北海道大学応用分子生物学分野応用分子昆虫学研究室 <http://www.agr.hokudai.ac.jp/rfoa/abs/abs2-1.html>  
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース応用昆虫学研究室 <http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/department2/agri/life.html>  
(国) 宇都宮大学農学部昆虫機能利用学研究室  
[http://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology/insect\\_physiology/seiri-research](http://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology/insect_physiology/seiri-research)  
(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室  
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>  
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科蚕学研究室 <http://www.tuat.ac.jp/~kaiko>  
(国) 東京農工大学工学部生命工学科 <http://www.tuat.ac.jp/~seimei>  
(国) 名古屋大学農学部 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>  
(国) 信州大学繊維学部 <http://www.tex.shinshu-u.ac.jp>  
(国) 京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程 <http://www.bio.kit.ac.jp>  
(国) 鳥取大学農学部生物資源環境学科昆虫機能学教育研究分野 <http://muses.muses.tottori-u.ac.jp>  
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科 <http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>  
(国) 九州大学大学院生物資源環境科学府蚕学研究室 <http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sangaku>  
群馬県蚕糸技術センター <http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>  
群馬県繊維工業試験場 <http://www.pref.gunma.jp/07/p20210013.html>  
京都府織物・機械金属振興センター <http://www.pref.kyoto.jp/oriki>  
(地独) 京都市産業技術研究所 <http://www.tc-kyoto.or.jp>  
(公財) 衣笠繊維研究所 <http://krf-textile.or.jp>  
(一財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 [http://www.silk.or.jp/silk\\_kagaku/index.html](http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html)  
(一財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 [http://www.silk.or.jp/silk\\_gijyutu/index.html](http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html)

## 【学会】

日本シルク学会  
(一社) 日本蚕糸学会  
日本野蚕学会

<http://jssst.sakura.ne.jp>  
<http://jsss.or.jp>  
<http://jswsmo.appspot.com>

## 【博物館】

(一財) シルクセンター-国際貿易観光会館 シルク博物館  
群馬県立日本絹の里  
愛媛県西予市野村シルク博物館  
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkcenter-kbkk.jp/museum>  
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp>  
<http://www.city.seiyo.ehime.jp/soshiki/silkmuseum>  
<http://www.tuat.ac.jp/~museum>

---

---

## 【博物館】

駒ヶ根シルクミュージアム

<http://www.cek.ne.jp/~shiruku>

織成館（京都市上京区）

<http://orinasukan.skr.jp>

高崎市染料植物園

<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/201401140097>

群馬県立歴史博物館

<http://grekisi.pref.gunma.jp>

岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）

<http://silkfact.jp>

はたや記念館ゆめおーれ勝山

<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya>

## 【富岡製糸場と絹産業遺産群】

富岡製糸場

<http://www.tomioka-silk.jp/hp/index.html>

群馬県 企画部 世界遺産課

<http://worldheritage.pref.gunma.jp/ja>

ぐんま絹遺産

<http://worldheritage.pref.gunma.jp/kinuisan>

上毛新聞社関連記事

[http://jomo-news.co.jp/ns/series/silk\\_index.html](http://jomo-news.co.jp/ns/series/silk_index.html)



# 統計資料目次

## <国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	48
(2) 養蚕農家数の推移	49
(3) 繭生産数量の推移	50
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	51
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	52
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	53
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	54
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	55
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	56
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	57
(11) 製糸工場の原料繭需給	58
(12) 製糸工場の操業状況	59
(13) 生糸在庫数量の内訳	60
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	61
(15) 生糸の原産国別輸入数量	62
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	63
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	64
(18) 絹織物生産数量	65
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	66
(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	67

## <海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	68
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	69
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量	70
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	71
(5) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	72
(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年指数	73
(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年指数	74
(8) 中国産業別従業員年平均賃金の推移	75
(9) 中国省別従業員年平均賃金(2014年)	76
(10) ブラジルの繭・生糸生産数量の推移	77

# 一資料・国内一

## (1) 蚕糸絹業の概要

### Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
年次(暦年) Calendar year	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
(平成)								
1997 (9)	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998 (10)	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999 (11)	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000 (12)	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 (13)	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 (14)	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 (15)	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 (16)	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 (17)	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 (18)	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 (19)	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 (20)	1,021	382	374	1.6	7	80	38.1	14,043
2009 (21)	915	327	357	1.2	7	60	33.6	9,955
2010 (22)	756	265	351	0.9	7	49	35.9	3,611
2011 (23)	627	220	351	0.7	7	52	34.7	3,152
2012 (24)	571	202	354	0.5	7	35	33.3	2,912
2013 (25)	486	168	346	0.4	7	31	32.0	2,940
2014 (26)	393	149	379	0.4	7	34	-	2,734
2015 (27)	368	135	367	0.4	7	30	-	2,324
前年比(%) 2015/2014	93.6	90.6	96.8	100.0	100.0	88.2	-	85.0

資料 ・平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。  
 ・平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(一財)大日本蚕糸会調査である。  
 ・平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査である。  
 ・平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は(一社)日本絹人織機工業会調査である。  
 平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。  
 ・平成23年以降の養蚕業は(一財)大日本蚕糸会調査である。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: ・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)  
 ・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and the Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009)  
 ・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009)  
 ・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008)  
 ・Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

## (2) 養蚕農家数の推移

## Farm households raising silk-worm

(単位：戸)  
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
2009		915	814	647	755
2010		756	650	494	637
2011		627	562	358	531
2012		571	514	319	462
2013		486	422	260	399
2014		393	359	230	328
2015		368	323	221	313
前年比(%)					
2015/2014		93.6	90.0	96.1	95.4

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、  
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).  
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).  
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).  
The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(3) 繭生産数量の推移  
Cocoon Production

年次 Year	項目 Item	年計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
		年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
		t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
1994		7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170
1995		5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172
1996		3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173
1997		2,516	982	678	857	398	174	153	167
1998		1,980	769	588	623	390	169	157	151
1999		1,496	596	391	509	371	166	144	155
2000		1,244	500	320	424	379	169	148	157
2001		1,031	391	275	365	378	162	147	161
2002		880	330	231	320	373	166	134	167
2003		775	313	210	253	374	167	140	144
2004		675	256	176	243	369	158	128	157
2005		626	243	165	218	396	171	156	162
2006		505	209	122	173	375	172	143	157
2007		433	175	110	148	371	166	152	150
2008		382	147	96	139	374	158	157	162
2009		327	124	85	118	357	152	131	156
2010		265	107	60	98	351	165	121	154
2011		220	95	49	76	351	169	136	143
2012		202	79	50	73	354	155	156	159
2013		168	61	41	67	346	145	158	168
2014		149	55	36	58	379	153	157	176
2015		135	49	32	54	368	151	147	174
前年比(%) 2015/2014		90.6	89.1	88.9	93.1	97.1	98.7	93.6	98.9
2015年 構成比(%)		100.0	36.3	23.7	40.0	100.0	41.0	39.9	47.3

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、  
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2001）.  
National Federation of Agricultural Co-operative Associations（2002～2004）.  
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（2005～2008年）.  
The Dainippon Silk Foundation（2009年～）

#### (4)蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures

(単位:戸、%)

都府県名	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年 間		
	26年	27年	前年対比	26年	27年	前年対比	26年	27年	前年対比	26年	27年	前年対比
青森県	-	-	-	1	-	-	1	1	100.0	1	1	100.0
岩手県	15	11	73.3	10	14	140.0	15	15	100.0	18	18	100.0
宮城県	11	11	100.0	11	10	90.9	14	13	92.9	17	16	94.1
山形県	7	7	100.0	5	5	100.0	6	8	133.3	8	10	125.0
福島県	40	34	85.0	41	36	87.8	47	40	85.1	48	44	91.7
茨城県	18	13	72.2	11	11	100.0	13	11	84.6	18	13	72.2
栃木県	23	22	95.7	18	14	77.8	23	23	100.0	23	23	100.0
群馬県	130	122	93.8	84	80	95.2	120	119	99.2	140	133	95.0
埼玉県	30	29	96.7	20	21	105.0	27	27	100.0	31	31	100.0
千葉県	6	6	100.0	5	5	100.0	5	6	120.0	6	6	100.0
東京都	4	4	100.0	-	-	-	3	4	133.3	4	5	125.0
新潟県	8	7	87.5	-	-	-	-	-	-	8	7	87.5
福井県	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
山梨県	11	7	63.6	5	5	100.0	11	8	72.7	12	9	75.0
長野県	14	14	100.0	10	9	90.0	13	15	115.4	17	16	94.1
岐阜県	11	8	72.7	-	-	-	9	5	55.6	11	8	72.7
愛知県	2	2	100.0	-	-	-	-	1	-	2	2	100.0
京都府	3	3	100.0	-	-	-	2	3	150.0	3	3	100.0
兵庫県	1	1	100.0	-	1	-	1	1	100.0	1	1	100.0
愛媛県	11	11	100.0	5	5	100.0	9	6	66.7	11	11	100.0
高知県	3	2	66.7	-	1	-	2	2	100.0	3	2	66.7
熊本県	5	4	80.0	-	-	-	2	-	-	5	4	80.0
宮崎県	2	1	50.0	-	-	-	1	1	100.0	2	1	50.0
鹿児島県	3	3	100.0	3	3	100.0	3	3	100.0	3	3	100.0
全国計	359	323	90.0	230	221	96.1	328	313	95.4	393	368	93.6

資料:(一財)大日本蚕糸会調査

Source:The Dainippon Silk Foundation

(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量  
Cocoon production by prefectures

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晚 秋 蚕 期			年間		
	26年	27年	前年比	26年	27年	前年比	26年	27年	前年比	26年	27年	前年比
青森県	-	-	-	113.7	-	-	93.7	92.4	98.6%	207.4	92.4	44.6%
岩手県	1,619.2	1,470.0	90.8%	1,450.7	1,936.6	133.5%	1,989.4	1,926.8	96.9%	5,059.3	5,333.4	105.4%
宮城県	1,791.2	1,472.6	82.2%	2,267.0	1,880.1	82.9%	2,363.9	2,191.9	92.7%	6,422.1	5,544.6	86.3%
山形県	1,222.5	1,314.5	107.5%	597.6	809.2	135.4%	1,570.4	1,483.4	94.5%	3,390.5	3,607.1	106.4%
福島県	8,335.8	6,417.0	77.0%	8,246.5	5,598.4	67.9%	11,998.8	9,184.6	76.5%	28,581.1	21,200.0	74.2%
茨城県	2,335.3	2,147.4	92.0%	1,314.7	1,405.0	106.9%	2,292.5	1,858.3	81.1%	5,942.5	5,410.7	91.1%
栃木県	8,047.0	7,919.8	98.4%	4,528.4	3,240.3	71.6%	10,309.9	9,364.9	90.8%	22,885.3	20,525.0	89.7%
群馬県	19,166.0	16,881.6	88.1%	11,382.4	11,715.2	102.9%	16,456.4	18,863.3	114.6%	47,004.8	47,460.1	101.0%
埼玉県	3,796.1	3,278.6	86.4%	2,191.5	2,271.8	103.7%	3,708.5	3,085.0	83.2%	9,696.1	8,635.4	89.1%
千葉県	1,001.6	1,105.6	110.4%	568.2	452.1	79.6%	1,026.2	931.0	90.7%	2,596.0	2,488.7	95.9%
東京都	210.4	212.3	100.9%	-	-	-	133.0	168.5	126.7%	343.4	380.8	110.9%
山梨県	2,372.2	1,904.8	80.3%	813.6	754.9	92.8%	1,882.0	1,773.4	94.2%	5,067.8	4,433.1	87.5%
長野県	1,813.2	1,572.7	86.7%	1,319.9	1,039.4	78.7%	1,771.7	1,818.1	102.6%	4,904.8	4,430.2	90.3%
新潟県	124.6	113.5	91.1%	-	-	-	-	-	-	124.6	113.5	91.1%
福井県	41.7	54.1	129.7%	33.3	26.8	80.5%	34.5	41.6	120.6%	109.4	122.5	112.0%
岐阜県	673.5	534.3	79.3%	-	-	-	568.3	457.0	80.4%	1,241.8	991.3	79.8%
愛知県	58.4	75.2	128.8%	-	-	-	0.0	35.0	-	58.4	110.2	188.7%
兵庫県	55.0	45.0	81.8%	-	40.3	-	65.0	44.7	68.8%	120.0	130.0	108.3%
京都府	82.7	74.3	89.8%	-	-	-	41.5	59.3	142.9%	124.3	133.6	107.5%
愛媛県	1,596.1	1,591.7	99.7%	952.2	1,140.3	119.8%	1,141.8	864.9	75.7%	3,690.1	3,596.9	97.5%
高知県	177.7	103.4	58.2%	-	59.7	-	82.4	64.9	78.8%	260.1	228.0	87.7%
熊本県	459.2	101.9	22.2%	-	-	-	73.6	-	-	532.8	101.9	19.1%
宮崎県	113.7	68.5	60.2%	-	-	-	34.4	58.7	170.6%	148.1	127.2	85.9%
鹿児島県	82.0	84.0	102.4%	77.0	93.2	121.0%	71.0	77.5	109.2%	230.0	254.7	110.7%
全国計	55,175.0	48,542.8	88.0%	35,856.6	32,463.3	90.5%	57,708.9	54,445.1	94.3%	148,740.5	135,451.2	91.1%

資料：(一財)大日本蚕糸会調査

Source: The Dainippon Silk Foundation

(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移

Production by Sort of Silk-Worm Eggs

Item	Year	2012年 (平成24年)		2013年 (平成25年)		2014年 (平成26年)		2015年 (平成27年)	
		箱 box	割合 rate %						
錦秋1号 × 鐘和1号		2,806	27.6	2,450	21.9	3,278	33.4	2,899	30.0
錦秋 × 鐘和月		1,818	17.8	3,221	28.8	1,754	17.9	1,946	20.1
春嶺 × 鐘20		838	8.2	1,871	16.7	1,116	11.4	1,242	12.9
春嶺1号 × 鐘月1号		1,443	14.2	1,125	10.1	1,104	11.3	1,019	10.5
小いりょう × あけぼのり		1,175	11.5	380	3.4	872	8.9	780	8.1
かいろ × あど		340	3.3	547	4.9	350	3.6	300	3.1
ぐんま × 黄		67	0.7	76	0.7	134	1.4	180	1.9
朝新 × 東石		416	4.1	166	1.5	140	1.4	136	1.4
改世 × 小石		55	0.5	111	1.0	76	0.8	134	1.4
プ ラ 技 × 長黄		70	0.7	64	0.6	103	1.1	116	1.2
太大白玉 × 細小		50	0.5	67	0.6	58	0.6	110	1.1
山黄白 × C5・507		324	3.2	317	2.8	129	1.3	107	1.1
緑秋極青 × 支21		33	0.3	48	0.4	52	0.5	93	1.0
N5・N6 × TY40		95	0.9	71	0.6	23	0.2	78	0.8
緑新支 × 四川3		64	0.6	76	0.7	128	1.3	58	0.6
支21 × 美		36	0.4	53	0.5	42	0.4	43	0.4
白極玉 × 細2		28	0.3	49	0.4	8	0.1	43	0.4
鷹 × 青		93	0.9	85	0.8	92	0.9	41	0.4
支108 × C5・505		15	0.1	17	0.2	20	0.2	39	0.4
山青 × 中515		33	0.3	42	0.4	20	0.2	32	0.3
又芙蓉 × 中つぎ		7	0.1	41	0.4	18	0.2	22	0.2
は朝改 × 多		15	0.1	21	0.2	16	0.2	11	0.1
琉球 × 又		7	0.1	6	0.1	5	0.1	8	0.1
山515 × 紹		27	0.3	33	0.3	4	0.0	8	0.1
中諸鬼 × 中515		4	0.0	4	0.0	4	0.0	5	0.1
合 計		4	0.0	4	0.0	4	0.0	4	0.0
Total		10,185	100.0	11,174	100.0	9,808	100.0	9,663	100.0

資料: (一財)大日本蚕糸会調査。

Source : The Dainippon Silk Foundation.

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量 Production (A)	輸入数量 Imports (B)	輸出数量 Exports (C)	国内引渡 数量 Domestic Deliveries (D)	期末在庫 数量 Ending Stocks (E)	輸入数量 Imports (F)	輸出数量 Exports (G)	輸入数量 Imports (H)	輸出数量 Exports (I)
	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
暦年 Calendar Year									
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,928	8,261
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,514	568	12,826	7,586
2007	1,747	12,601	—	15,624	8,080	19,439	404	11,409	7,186
2008	1,588	15,212	270	20,026	4,584	22,636	466	11,696	7,131
2009	1,152	12,075	133	13,623	4,055	16,657	387	9,028	6,271
2010	882	12,207	595	13,220	3,329	16,306	324	8,930	6,302
2011	731	9,323	578	10,349	2,456	17,526	427	8,422	6,229
2012	506	10,032	419	10,274	2,180	16,179	320	7,218	5,545
2013	409	9,332	292	9,919	1,712	15,844	426	6,662	5,431
2014	446	8,235	14	8,726	1,653	14,820	330	6,098	5,125
2015	378	6,479	0	7,194	1,316	14,051	302	5,468	5,085
2014 —									
1	30	776	0	679	1,839	1,579	13	684	324
2	39	591	0	582	1,887	677	21	296	485
3	35	1,055	10	976	1,991	1,338	15	487	511
4	42	270	0	547	1,756	1,392	30	474	521
5	41	927	0	725	1,999	1,332	26	570	486
6	45	869	0	946	1,967	1,355	30	643	380
7	39	599	0	728	1,877	1,311	45	553	429
8	24	548	0	663	1,786	1,203	25	475	362
9	32	591	0	681	1,728	1,411	41	422	359
10	43	748	0	794	1,725	1,121	22	510	447
11	34	667	0	784	1,642	1,008	36	446	392
12	43	600	3	629	1,653	1,094	27	534	428
2015 —									
1	35	722	0	663	1,747	1,422	14	449	380
2	44	614	0	647	1,758	1,045	7	539	342
3	37	802	0	686	1,911	693	17	271	469
4	38	0	0	531	1,418	1,165	27	461	428
5	29	822	0	719	1,550	1,591	50	530	479
6	37	628	0	680	1,535	1,293	32	463	432
7	30	572	0	638	1,499	1,283	40	484	442
8	25	467	0	448	1,543	1,238	47	371	391
9	23	479	0	557	1,488	1,152	30	364	380
10	28	462	0	517	1,461	1,161	16	549	504
11	25	530	0	509	1,507	1,024	6	522	403
12	27	380	0	504	1,410	983	17	407	434
2016 —									
1	23	423	0	513	1,343	1,101	35	468	354
2	33	595	0	607	1,364	797	10	460	348
3	38	636	0	401	1,637	911	15	384	523
4	26	0	0	414	1,249	1,047	19	445	478
5	24	726	0	529	1,470	900	20	493	364
6	17	555	0	648	1,394	1,295	12	457	434
7	26	642	0	630	1,432	1,072	8	442	443
8	26	589	0	599	1,448	967	9	383	332
9	30	520	0	620	1,378	946	5	374	426
10		602	0			862	17	414	415

資料：(A)(C)(D)(E)農林水産省生産局調査（～2010.3）、中央蚕糸協会及び日本生糸問屋協会（2010.4～2012.3）、中央蚕糸協会（2012.12～）。(B)財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F)(G)(H)(I)財務省関税局調査。

備考：1.国内引渡数量(D)=[前月在庫数量+(A)+(B)]-[(C)+(E)]。  
2.kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。  
3.(D)と(E)は2012年11月までと同年12月以降調査方法が変更したため連続性はない。

Source：(A)(C)(D)(E)The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2010.3）、Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11)、Central Raw Silk Ass(2012.12～)。

(B)The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F)(G)(H)(I)The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1.Domestic deliveries(D)={Stock at end of the previous month+(A)+(B)}-[(C)+(E)].  
2.Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸の織度別生産数量の推移  
Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	生 糸 Raw Silk					
	計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
暦 年 Calendar Year						
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
2009	1,152	1	243	392	251	262
2010	882	1	179	316	86	300
2011	731	1	188	249	89	204
2012	506	0	149	202	73	82
2013	409	0	109	105	57	138
2014	447	0	114	116	62	155
2015	378	0	146	86	36	110
2014 -						
1	30	—	9	3	2	16
2	39	—	10	4	0	25
3	35	—	14	6	6	9
4	42	—	7	11	7	17
5	41	—	9	17	5	10
6	45	—	13	12	5	15
7	39	—	13	8	8	10
8	24	—	1	15	0	8
9	32	—	9	10	1	12
10	43	—	10	8	11	14
11	34	—	9	12	9	4
12	43	—	10	10	8	15
2015 -						
1	35	—	10	12	6	7
2	44	—	6	12	12	14
3	37	—	17	11	4	5
4	38	—	16	2	8	12
5	29	—	13	4	0	12
6	37	—	15	6	2	14
7	30	—	13	6	0	11
8	25	—	8	9	0	8
9	23	—	14	3	1	5
10	28	—	8	12	0	8
11	25	—	12	5	2	6
12	27	—	14	4	1	8
2016 -						
1	23	—	7	11	0	5
2	33	—	10	7	4	12
3	38	—	9	12	11	6
4	26	—	6	12	1	7
5	24	—	3	7	2	12
6	17	—	11	3	0	3
7	26	—	10	10	0	6
8	26	—	7	9	6	4
9	30	—	7	12	1	10

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会(2010.4～)。

備 考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3). Central Raw Silk Association (2010.4～).

Remarks : Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

## (9) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)

## Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)  
(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④						期末 在庫 Ending Stocks ④	
	期初 在庫 Opening Stocks	生産 Produc- tion	輸入 Import					輸出 Export					内需 Domestic Demand ②-③			
			計 Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics	二次 The Second	計 ③ Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics	二次 The Second				
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45
2015	221	45	0	176	6	14	11	145	176	13	0	0	12	5	163	45
前年比(%) 2015/2014	98	100	—	98	75	93	92	100	98	93	—	—	92	500	98	100

資料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

注) 2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source: "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics"

## (10) 品目別・二次製品輸入数量 (生糸量換算試算)

## Breakdown of Silk Second Products Imports (Raw Silk Value Estimation)

(単位:千俵)

(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item	暦年 Calendar Year	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	前年比%	構成比%
									y/y	ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments	1.8	2.8	2.2	2.4	3.1	3.4	2.4	70.6	1.7
	女子用外衣類 Women's upper garments	37.1	38.4	51.2	50.0	63.5	53.4	65.6	122.8	45.3
	うちブラウス Blouse of the inside	2.8	2.4	2.0	2.2	6.0	2.9	1.2	41.4	0.8
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth	1.1	1.0	1.4	1.5	1.9	2.0	1.3	65.0	0.9
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth	13.5	13.9	15.5	15.5	20.5	21.9	18.8	85.8	13.0
	ハンカチ Handkerchief	0.4	0.3	0.5	0.3	0.4	0.3	0.3	100.0	0.2
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves	2.5	2.2	2.2	2.3	2.2	2.0	1.9	95.0	1.3
	ネクタイ類 Ties	18.2	18.1	14.5	12.8	11.9	9.7	7.8	80.4	5.4
メリヤス、クロセス編物 Knit. kurose knitting	15.9	17.9	18.6	22.7	26.1	20.4	17.9	87.7	12.4	
その他の洋装類 Other western clothes	22.0	21.0	20.2	19.1	18.9	17.8	15.9	89.3	11.0	
洋装類計 Western clothes subtotal	112.4	115.6	126.3	126.6	148.5	130.9	131.9	100.8	91.2	
和装類計 Japanese clothes subtotal	15.9	14.5	12.5	11.8	13.0	12.2	10.3	84.4	7.1	
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessorys of the inside	13.9	12.5	10.1	10.1	11.0	10.1	8.6	85.1	5.9	
その他 Others	1.9	2.9	3.1	3.2	2.3	1.8	2.6	144.4	1.8	
合計 Total	130.2	133.0	141.9	141.6	163.8	144.9	144.7	99.9	100.0	

資料 : 財務省「日本貿易月報」

注) : ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"

Note : Total may not added up due to round off.

## (11) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
	2005	806	830	589
	2006	600	645	541
	2007	548	581	505
	2008	393	518	378
	2009	308	385	313
	2010	240	299	263
	2011	189	162	237
	2012	185	209	183
	2013	142	137	188
	2014	128	158	158
2014	— 1	0	11	177
	2	0	15	162
	3	0	12	150
	4	0	15	135
	5	0	14	121
	6	24	14	131
	7	29	14	146
	8	17	9	154
	9	9	11	152
	10	38	15	175
	11	11	12	174
	12	0	16	158
2015	— 1	0	13	145
	2	0	14	131
	3	0	12	119
	4	0	13	106
	5	0	11	95
	6	22	13	104
	7	29	11	122
	8	14	8	128
	9	12	37	103
	10	34	9	128
	11	5	9	124
	12	0	9	115
2016	— 1	0	8	107
	2	0	11	96
	3	0	13	83
	4	0	9	74
	5	0	8	66
	6	23	6	83
	7	24	10	97
	8	10	8	99
	9	7	10	96

資 料：農林水産省生産局調査(～2010. 3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010. 4～2012. 11)。  
中央蚕糸協会(2012. 12～)。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。  
2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。  
3. 2015年9月の消費数量は焼失分29tを含む。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010. 3).  
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010. 4～2012. 11).  
Central Raw Silk Association (2012. 12～).

Remarks：1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.  
2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

## (12) 製糸工場の操業状況

## Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
	2005	10	203	126	62	269	111
	2006	9	114	94	82	266	103
	2007	8	112	93	83	266	100
	2008	6	112	90	80	266	90
	2009	6	118	71	60	259	82
	2010	7	118	58	49	247	73
	2011	7	110	57	52	252	65
	2012	7	110	39	35	243	56
	2013	9	110	38	31	249	58
	2014	9	110	38	34	261	58
	2015	8	110	33	30	263	56
2014 -	1	6	110	38	35	20	57
	2	6	110	37	34	23	57
	3	6	110	37	34	22	57
	4	7	110	37	34	23	57
	5	7	110	37	34	22	57
	6	9	110	38	35	23	62
	7	9	110	39	35	20	62
	8	6	110	26	24	23	50
	9	7	110	38	35	19	58
	10	8	110	38	35	23	62
	11	8	110	37	34	21	62
	12	7	110	38	35	22	58
2015 -	1	7	110	37	34	20	57
	2	7	110	39	35	21	57
	3	6	110	38	35	23	61
	4	6	110	38	35	23	60
	5	7	110	37	34	20	60
	6	8	110	39	35	23	60
	7	8	110	35	32	22	60
	8	6	110	26	24	20	48
	9	6	110	23	21	23	48
	10	6	110	25	23	23	53
	11	7	110	27	25	22	53
	12	7	110	27	25	23	53
2016 -	1	7	110	25	23	19	53
	2	6	110	34	31	22	57
	3	6	110	36	33	23	57
	4	7	110	31	28	23	58
	5	6	110	21	19	21	50
	6	7	110	20	19	23	49
	7	8	110	31	28	23	63
	8	7	110	31	28	21	59
	9	7	110	30	27	23	58

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)。

中央蚕糸協会及び(一財)大日本蚕糸会(2012.12～)。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).

Central Raw Silk Association(2012.12～)

Remarks：1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳  
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets				農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation			
			計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受 入 数 量 Accepts	引 渡 数 量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year										
2005		8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006		9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007		8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008		4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009		4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010		3,329	3,329	319	—	2,354	656			
2011		2,456	2,456	288	—	1,651	517			
2012		2,180	2,180	124	—	2,056				
2013		1,712	1,712	110	—	1,602				
2014		1,653	1,653	78	—	1,575				
2015		1,410	1,410	94	—	1,316				
2014 —	1	1,839	1,839	116	—	1,723				
	2	1,887	1,887	114	—	1,773				
	3	1,991	1,991	78	—	1,913				
	4	1,756	1,756	85	—	1,671				
	5	1,999	1,999	99	—	1,900				
	6	1,967	1,967	88	—	1,879				
	7	1,877	1,877	79	—	1,798				
	8	1,786	1,786	74	—	1,712				
	9	1,728	1,728	63	—	1,665				
	10	1,725	1,725	67	—	1,658				
	11	1,642	1,642	66	—	1,576				
	12	1,653	1,653	78	—	1,575				
2015 —	1	1,747	1,747	74	—	1,673				
	2	1,758	1,758	77	—	1,681				
	3	1,911	1,911	80	—	1,831				
	4	1,418	1,418	75	—	1,343				
	5	1,550	1,550	83	—	1,467				
	6	1,535	1,535	88	—	1,447				
	7	1,499	1,499	89	—	1,410				
	8	1,543	1,543	87	—	1,456				
	9	1,488	1,488	89	—	1,399				
	10	1,461	1,461	87	—	1,374				
	11	1,507	1,507	79	—	1,428				
	12	1,410	1,410	94	—	1,316				
2016 —	1	1,343	1,343	93	—	1,251				
	2	1,364	1,364	97	—	1,267				
	3	1,637	1,637	119	—	1,518				
	4	1,249	1,249	116	—	1,133				
	5	1,470	1,470	114	—	1,356				
	6	1,394	1,394	111	—	1,283				
	7	1,432	1,432	107	—	1,325				
	8	1,448	1,448	111	—	1,337				
	9	1,378	1,378	118	—	1,260				

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)。中央蚕糸協会(2012.12～)

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).

Central Raw Silk Association (2012.12～).

## (14) 蚕糸関係品目別輸入状況

## Breakdown of Silk-Related Products Imports

	単位 Unit	平成28年(2016)		平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	27年/26年 2015/2014 (%)
		(10月) Oct.	(累計) Accumulate d Total								
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bale s of 60kg	602	5,287	12,075	12,207	9,323	10,032	9,332	8,235	6,479	78.7
絹糸 Silk Yarn	俵 Bale s of 60kg	862	9,898	16,647	16,306	17,526	16,179	15,844	14,820	14,051	94.8
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bale s of 60kg	0	37	149	82	62	81	169	48	33	68.8
繭 Cocoon	kg	1,000	2,000	9,800	13,158	4,050	6,250	8,300	10,200	6,800	66.7
くず繭 Waste Cocoon	kg	316	4,209	33,450	9,395	10,885	6,457	13,314	11,728	8,860	75.5
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	1,750	43,512	125,999	134,852	98,732	107,023	92,024	101,655	89,984	88.5
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	2,066	47,721	159,449	144,247	109,617	107,022	105,338	113,383	98,844	87.2
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	23,833	282,281	335,710	451,219	394,920	482,523	438,786	453,450	343,101	75.7
絹紡糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	16,374	102,031	97,554	104,374	118,404	140,188	152,749	141,707	148,796	105.0
絹織物 Silk Fabrics	m <sup>2</sup>	413,671	4,319,436	9,027,911	8,930,391	8,422,094	7,218,094	6,661,585	6,097,501	5,468,177	89.7

資料：財務省関税局

備考：絹ノイルと真綿の統計は、平成21年1月より廃止された。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(15) 生糸の原産国別輸入数量  
Raw Silk Imports

(単位：60kg 俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

国名 Country	計 Total	中国 China	ブラジル Brazil	ベトナム Vietnam	タイ Thailand	その他 Others
年 月 Year & Month						
暦年 Calendar Year						
2007	12,858	8,804	3,848	-	206	-
2008	15,242 (137)	10,969 (102)	4,152 (35)	-	122	-
2009	12,085 (72)	8,170 (51)	3,855 (21)	-	41	-
2010	12,209 (65)	8,411 (40)	3,706 (25)	-	32	-
2011	9,323 (63)	7,170 (32)	2,136 (30)	-	5	-
2012	10,032 (49)	8,628 (36)	1,403 (13)	-	-	-
2013	9,332 (98)	8,047 (59)	1,275 (34)	10 (5)	-	-
2014	8,241 (90)	7,001 (75)	1,143 (15)	70	7	20
2015	6,479 (58)	5,569 (49)	887 (9)	20	2	-
2014 - 1	776	687	88	-	1	-
2	591 (2)	465 (2)	107	-	-	20
3	1,055 (13)	973 (13)	76	5	-	-
4	270 (4)	169 (4)	100	-	2	-
5	927 (25)	795 (20)	132 (5)	-	-	-
6	869 (17)	683 (7)	133 (10)	50	2	-
7	599	522	75	-	2	-
8	548	459	79	10	-	-
9	591	480	111	-	-	-
10	748 (14)	660 (14)	83	5	-	-
11	667 (5)	564 (5)	103	-	-	-
12	600 (10)	544 (10)	56	-	-	-
2015 - 1	722	510	212	-	-	-
2	614 (2)	589 (2)	15	10	-	-
3	802 (2)	769	33 (2)	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-
5	822 (3)	689 (3)	133	-	-	-
6	628 (23)	572 (23)	47	10	-	-
7	572 (15)	534 (10)	36 (5)	-	2	-
8	467 (6)	417 (6)	50	-	-	-
9	479	364	115	-	-	-
10	462 (6)	366 (6)	96	-	-	-
11	530 (2)	444	86 (2)	-	-	-
12	380	315	65	-	-	-
2016 - 1	423 (10)	299 (10)	124	-	-	-
2	595	493	102 (3)	-	-	-
3	636	596	40	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-
5	726 (15)	557 (15)	167	-	2	-
6	555 (10)	503 (5)	52 (5)	-	-	-
7	642 (7)	523 (7)	118	1	-	-
8	589	499	88	2	-	-
9	520 (5)	447 (5)	73	-	-	-
10	602 (2)	442 (2)	160	-	-	-

資料：財務省関税局調査

備考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。  
2. ( ) 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for douppion silk imports.

(16) 絹糸の原産国別輸入数量  
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

年月 Year & Month	国名 Country	計 Total	韓国 S Korea	中国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦年 Calendar Year									
2008		22,636	143	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009		16,647	—	9,656	5,096	12	—	1,742	137
2010		16,306	—	9,675	4,161	16	—	1,716	205
2011		17,526	—	10,384	5,129	7	—	1,131	212
2012		16,179	—	9,924	4,908	15	—	1,109	223
2013		15,844	—	9,148	5,783	33	—	878	3
2014		14,820	—	8,190	5,733	8	—	867	22
2015		14,051	—	7,928	5,586	4	0	531	2
2014 —	1	1,579	—	820	692	—	—	67	—
	2	677	—	313	271	1	—	91	—
	3	1,338	—	922	371	—	—	45	—
	4	1,392	—	744	556	—	—	90	2
	5	1,332	—	806	456	—	—	69	—
	6	1,355	—	813	471	1	—	71	—
	7	1,311	—	720	531	1	—	59	—
	8	1,203	—	630	498	—	—	56	19
	9	1,411	—	762	560	3	—	86	—
	10	1,121	—	433	600	2	—	86	—
	11	1,008	—	582	326	1	—	99	—
	12	1,094	—	647	402	1	—	45	—
2015 —	1	1,422	—	788	529	—	—	105	—
	2	1,045	—	573	461	0	0	11	—
	3	693	—	405	268	—	0	21	—
	4	1,165	—	745	332	—	—	87	1
	5	1,591	—	951	610	—	—	31	—
	6	1,293	—	679	564	1	0	48	—
	7	1,283	—	697	568	—	—	17	—
	8	1,238	—	732	490	—	—	15	1
	9	1,152	—	692	401	—	—	59	—
	10	1,161	—	528	594	—	—	39	—
	11	1,024	—	536	431	1	—	56	0
	12	983	—	601	339	2	—	41	—
2016 —	1	1,101	—	564	476	—	—	62	—
	2	797	—	468	292	0	0	35	2
	3	911	—	579	289	—	—	42	—
	4	1,047	—	659	357	—	—	30	1
	5	900	—	538	255	4	—	102	—
	6	1,295	—	802	442	—	—	51	—
	7	1,072	—	573	423	—	—	76	—
	8	967	—	566	332	—	—	69	—
	9	946	—	598	294	2	—	51	—
	10	862	—	548	250	—	—	62	2

資料：財務省関税局調査。

備考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：Country volume may not add up the total volume due to round off.

## (17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価

## Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵、円/Kg

Unit: bale of 60kg, yen/kg

項目 Item	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
暦年 Calendar Year										
1999	27,446	2,439	14,602	3,026	11,729	2,979	6,069	3,706	2,886	3,277
2000	30,147	2,655	11,772	3,340	13,769	2,789	5,712	3,543	6,255	3,168
2001	22,018	2,824	8,339	3,713	10,303	3,149	5,130	3,790	6,607	3,688
2002	24,521	2,241	7,909	3,192	13,256	2,556	6,097	3,299	7,122	3,053
2003	24,074	1,988	7,260	2,436	17,408	2,182	6,223	2,740	7,167	2,499
2004	18,016	2,435	7,387	3,631	13,280	2,576	7,444	3,038	7,076	2,624
2005	17,327	2,638	5,308	2,903	18,977	3,105	5,767	3,301	7,550	2,933
2006	14,739	3,736	6,181	4,188	17,019	4,172	5,675	4,543	8,706	3,643
2007	8,793	3,321	3,846	3,778	11,726	3,586	2,930	4,305	4,744	3,972
2008	12,190	3,104	4,153	3,490	12,627	3,361	3,204	3,989	6,865	3,220
2009	8,120	2,740	3,965	3,059	9,656	2,840	1,742	3,611	5,116	3,034
2010	8,411	3,667	3,706	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,606	3,411
2011	7,170	4,469	2,136	5,492	10,384	4,707	1,722	5,398	5,429	4,402
2012	8,628	4,293	1,404	5,290	9,924	4,383	1,110	6,078	4,908	4,493
2013	8,047	5,954	1,275	7,420	9,148	6,150	878	8,409	5,783	6,091
2014	6,925	6,449	1,127	8,362	8,190	6,609	867	9,480	5,743	6,794
2015	5,520	6,803	879	8,199	7,928	6,908	531	9,261	5,586	7,283
2014 -										
1	687	6,560	88	8,429	820	6,758	67	9,549	692	6,812
2	463	6,575	107	8,487	313	6,790	91	9,402	271	6,591
3	961	6,433	76	8,230	922	6,543	45	9,366	371	6,977
4	164	6,583	100	8,283	744	6,658	90	9,330	556	6,682
5	775	6,364	127	8,291	806	6,696	69	9,311	466	6,823
6	676	6,392	124	8,224	813	6,336	71	9,296	471	6,756
7	522	6,237	75	8,205	720	6,341	59	9,251	531	6,625
8	459	6,223	79	8,313	630	6,324	56	9,299	498	6,592
9	480	6,264	111	8,302	762	6,471	86	9,336	560	6,733
10	646	6,407	83	8,485	433	6,778	86	9,665	600	6,857
11	559	6,496	103	8,509	582	6,667	99	9,764	326	6,973
12	534	6,944	56	8,760	647	7,173	45	10,322	402	7,220
2015 -										
1	510	6,969	212	8,872	788	7,186	105	10,172	529	7,406
2	587	6,961	15	9,151	573	6,820	11	10,531	461	7,339
3	769	6,896	31	8,760	405	7,053	21	9,943	268	7,931
4	-	-	-	-	745	7,049	87	9,508	332	7,773
5	686	6,836	133	8,493	951	6,794	31	9,392	610	7,325
6	549	6,983	47	8,388	679	7,044	48	9,397	564	7,224
7	524	6,801	31	8,836	697	7,053	17	9,483	568	7,673
8	412	7,056	50	8,072	732	6,853	15	9,407	490	7,285
9	364	6,760	115	7,593	692	6,854	59	8,577	401	7,007
10	360	6,381	96	7,553	528	6,625	39	8,424	594	6,948
11	444	6,338	84	7,827	536	6,825	56	8,506	431	6,872
12	315	6,496	65	7,091	601	6,665	41	8,132	339	6,821
2016 -										
1	289	6,176	124	6,937	564	6,281	62	7,798	476	6,358
2	493	6,000	99	7,188	468	6,279	35	7,786	292	6,422
3	596	5,838	40	5,973	579	5,969	42	7,248	289	6,056
4	-	-	-	-	659	5,668	30	6,711	357	6,090
5	542	5,541	167	6,027	538	5,636	102	6,759	255	5,730
6	498	5,497	47	5,933	802	5,641	51	6,361	442	5,777
7	516	5,332	118	5,566	573	5,360	76	6,157	423	5,419
8	499	5,370	88	5,194	566	5,549	69	6,104	332	5,340
9	442	5,217	73	5,565	598	5,395	51	6,087	294	5,636
10	440	5,276	160	6,069	548	5,420	62	6,122	250	5,883

資料：財務省調査。通関統計による、単価はC I F価格である。

Source: The customs Bureau, Ministry of Finance

Remarks: A unit price is CIF price.

## (18) 絹織物生産数量

## Production of Silk Fabrics

(単位：1,000㎡)  
(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	
年 月 Year & Month									
暦 年 Calendar Year									
2003	23,935	8,374	3,801	2,464	2,109	11,509	7,747	3,762	4,052
2004	21,895	7,510	3,511	2,182	1,817	10,875	7,431	3,444	3,510
2005	19,816	6,669	2,965	1,903	1,801	10,298	6,980	3,318	2,849
2006	18,507	6,105	2,732	1,727	1,646	9,311	5,966	3,345	3,090
2007	15,466	5,215	2,276	1,547	1,392	7,709	4,671	3,038	2,542
2008	14,043	4,887	2,061	1,419	1,407	6,929	4,263	2,666	2,228
2009	9,955	3,239	1,254	1,045	939	5,288	3,441	1,847	1,428
2010	3,611	1,379	871	66	442	1,538	630	908	694
2011	3,152	1,438	786	62	591	1,003	562	441	711
2012	2,912	1,357	738	54	565	879	429	449	677
2013	2,940	1,428	813	46	569	809	397	412	703
2014	2,734	1,441	803	40	599	665	298	367	628
2015	2,316	1,228	664	35	529	630	283	347	458
2014 —									
1	226	120	67	3	50	51	23	28	55
2	236	121	68	3	50	57	25	32	58
3	240	125	75	4	46	57	26	31	58
4	244	125	73	4	48	61	29	32	58
5	249	134	70	4	61	57	24	33	57
6	252	137	72	4	61	57	25	32	58
7	238	125	67	3	55	55	24	31	57
8	195	104	63	3	38	47	20	27	43
9	207	111	66	3	43	53	24	29	43
10	222	112	63	3	45	58	27	31	52
11	212	112	61	3	48	56	26	31	44
12	214	113	57	3	53	56	26	30	45
2015 —									
1	191	98	60	3	36	52	22	30	41
2	182	86	57	2	27	53	25	29	43
3	192	94	60	3	31	57	27	30	41
4	208	110	57	2	51	58	29	29	40
5	182	99	52	3	43	50	22	28	33
6	217	121	57	3	61	54	24	30	42
7	206	111	53	3	54	55	23	33	40
8	161	84	54	3	28	44	20	24	32
9	183	99	53	3	43	49	23	26	36
10	198	105	56	3	45	54	24	30	40
11	193	106	52	3	52	52	23	29	35
12	200	115	52	3	59	50	21	29	36
2016 —									
1	172	94	54	3	38	44	18	26	34
2	172	85	53	3	30	50	22	28	37
3	190	99	56	3	39	52	23	29	39
4	214	117	53	3	61	58	24	34	39
5	204	117	52	3	61	51	20	31	36
6	213	114	53	3	58	54	25	29	45
7	181	89	50	4	35	50	23	28	41
8	161	81	47	3	30	45	21	24	35
9	171	87	48	3	35	49	22	27	35

資 料：(一社)日本絹人織織物工業会。

備 考：1. 絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

2. 2009年から調査対象が変更された。

Source : Japan Silk &amp; Rayon Weaver's Association.

Remarks : Spun and mixed fabrics included .

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

## (19)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

## Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦年 Calendar Year								
2004	21,895	91.7	1,119,897	95.6	189,426	90.8	780,082	84.6
2005	19,816	90.5	1,058,571	94.5	170,061	92.6	691,780	88.7
2006	18,504	93.4	912,027	86.2	132,448	78.1	598,040	86.4
2007	15,466	83.6	712,560	78.1	97,204	73.0	977,719	163.5
2008	14,043	90.8	656,919	92.2	88,401	90.8	867,490	88.7
2009	9,955	70.9	503,365	76.6	73,681	84.0	746,538	86.1
2010	3,611	36.3	515,721	102.5	84,023	110.0	859,244	115.1
2011	3,152	87.3	475,989	92.3	70,803	84.3	692,943	80.6
2012	2,912	92.4	451,503	94.9	62,910	88.9	645,679	92.9
2013	2,940	101.0	433,451	96.0	55,792	88.7	630,586	97.7
2014	2,734	93.0	400,192	92.3	53,174	95.3	600,917	95.3
2015	2,313	84.6	351,309	87.8	41,893	78.8	526,417	87.6
2014 —								
1	226	94.6	24,533	98.0	4,530	101.7	50,063	91.7
2	236	97.5	38,740	92.4	4,396	94.9	54,843	105.0
3	240	96.8	33,931	91.4	4,903	113.9	62,781	112.6
4	244	94.6	34,069	87.6	4,841	88.1	53,582	86.7
5	249	101.2	33,576	96.2	4,241	88.5	50,515	84.8
6	252	98.4	36,794	90.0	4,980	106.1	47,469	96.3
7	238	90.5	33,951	92.5	4,374	87.1	47,632	103.3
8	195	93.3	30,098	98.0	3,355	94.1	42,905	99.4
9	207	95.0	34,688	88.8	4,908	98.7	50,566	108.9
10	222	85.7	31,587	98.2	4,417	89.1	50,476	94.3
11	212	84.5	35,611	90.5	4,179	100.2	44,217	77.8
12	214	85.6	32,614	88.9	4,050	85.7	45,868	88.6
2015 —								
1	191	84.5	23,759	96.8	3,624	80.0	47,602	95.1
2	182	77.1	34,789	89.8	3,895	88.6	43,469	79.3
3	192	80.0	31,168	91.9	4,472	91.2	49,386	78.7
4	208	85.2	31,316	91.9	4,117	85.0	50,797	94.8
5	182	73.1	29,814	88.8	3,105	73.2	43,367	85.8
6	217	86.1	31,254	84.9	4,011	80.5	41,884	88.2
7	206	86.6	28,297	83.3	3,545	81.0	45,889	96.3
8	161	82.6	27,192	90.3	3,122	93.1	34,886	81.3
9	183	88.4	28,540	82.3	3,270	66.6	43,982	87.0
10	198	89.2	28,745	91.0	2,808	63.6	44,298	87.8
11	193	91.0	30,007	84.3	3,138	75.1	37,921	85.8
12	200	93.5	26,428	81.0	2,786	68.8	43,936	95.8
2016 —								
1	172	90.1	22,012	92.6	2,707	74.7	39,031	82.0
2	172	94.5	28,277	81.3	3,482	89.4	44,351	102.0
3	190	99.0	25,517	81.9	3,284	73.4	49,298	99.8
4	214	102.9	29,177	93.2	3,167	76.9	47,090	92.7
5	204	112.1	24,051	80.7	3,228	104.0	43,230	99.7
6	213	98.2	26,552	85.0	3,393	84.6	43,263	103.3
7	181	87.9	26,799	94.7	3,169	89.4	36,125	78.7
8	161	100.0	21,611	79.5	3,302	105.8	32,724	93.8
9	171	93.4	26,624	93.3	3,175	97.1	36,533	83.1
10			26,625	92.6	3,356	119.5		

資料：絹織物生産数量は(一社)日本絹人織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

備考：1. 2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

2. 2009年から調査対象が変更された。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan. 2006, sash linings are included in sash production.

## (20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況

## Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing & footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)
年月 Year & Month												
暦年 Calendar Year												
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	▲ 1.2	345	▲ 0.9	5,066	▲ 1.2	2,727	▲ 1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 1.7	11,994	▲ 4.2	261	▲ 12.7	4,622	▲ 5.5	2,468	▲ 5.0	1,098	▲ 3.1
2010	290,244	▲ 0.5	11,499	▲ 4.1	245	▲ 6.1	4,459	▲ 3.5	2,353	▲ 4.7	1,069	▲ 2.6
2011	282,966	▲ 2.5	11,382	▲ 1.0	270	▲ 10.2	4,273	▲ 4.2	2,403	▲ 2.1	1,100	▲ 2.9
2012	286,169	▲ 1.1	11,453	▲ 0.6	246	▲ 8.9	4,305	▲ 0.7	2,410	▲ 0.3	1,087	▲ 1.2
2013	290,455	▲ 1.5	11,756	▲ 2.6	177	▲ 28.3	4,583	▲ 6.4	2,504	▲ 3.9	1,066	▲ 2.0
2014	291,194	▲ 0.3	11,983	▲ 1.9	227	▲ 28.3	4,617	▲ 0.7	2,518	▲ 0.6	1,097	▲ 3.0
2015	287,374	▲ 1.3	11,363	▲ 5.2	165	▲ 27.0	4,451	▲ 3.6	2,389	▲ 5.1	994	▲ 9.4
2014 - 1	297,070	▲ 2.8	14,736	▲ 19.8	632	▲ 2,157.1	6,424	▲ 23.3	2,868	▲ 10.6	1,100	▲ 0.9
2	266,610	▲ 0.6	8,384	▲ 8.0	110	▲ 43.3	3,573	▲ 11.8	1,484	▲ 9.9	665	▲ 9.9
3	345,443	▲ 9.3	14,955	▲ 12.7	168	▲ 21.7	6,719	▲ 8.8	2,534	▲ 7.5	1,166	▲ 37.5
4	302,141	▲ 0.7	11,308	▲ 3.9	79	▲ 41.0	4,330	▲ 5.0	2,475	▲ 1.5	866	▲ 0.2
5	271,411	▲ 3.9	12,145	▲ 2.1	238	▲ 3.0	3,923	▲ 3.8	2,913	▲ 1.5	1,133	▲ 0.8
6	272,791	▲ 1.3	12,141	▲ 0.0	322	▲ 23.2	4,130	▲ 1.0	2,785	▲ 5.0	1,184	▲ 4.8
7	280,293	▲ 2.0	11,262	▲ 5.2	352	▲ 81.4	3,658	▲ 10.6	2,969	▲ 6.5	1,186	▲ 3.1
8	282,124	▲ 0.9	9,307	▲ 5.4	226	▲ 218.3	3,105	▲ 8.7	2,147	▲ 2.1	981	▲ 0.3
9	275,226	▲ 1.9	9,178	▲ 0.0	169	▲ 7.1	3,197	▲ 7.5	2,153	▲ 11.2	809	▲ 0.2
10	288,579	▲ 0.7	11,988	▲ 4.0	221	▲ 10.2	4,649	▲ 9.3	2,569	▲ 1.0	1,053	▲ 1.0
11	280,271	▲ 0.3	14,110	▲ 2.7	119	▲ 26.6	5,959	▲ 5.2	2,748	▲ 6.0	1,324	▲ 5.7
12	332,363	▲ 0.6	14,286	▲ 2.2	82	▲ 56.1	5,734	▲ 1.7	2,574	▲ 0.8	1,702	▲ 14.2
2015 - 1	289,847	▲ 2.4	12,881	▲ 12.6	188	▲ 70.3	5,921	▲ 7.8	2,332	▲ 18.7	1,102	▲ 0.2
2	265,632	▲ 0.4	8,788	▲ 4.8	117	▲ 6.4	3,885	▲ 8.7	1,711	▲ 15.3	610	▲ 8.3
3	317,579	▲ 8.1	13,185	▲ 11.8	104	▲ 38.1	6,179	▲ 8.0	2,341	▲ 7.6	810	▲ 30.5
4	300,480	▲ 0.5	12,493	▲ 10.5	155	▲ 96.2	4,759	▲ 9.9	2,532	▲ 2.3	881	▲ 1.7
5	286,433	▲ 5.5	12,499	▲ 2.9	101	▲ 57.6	4,191	▲ 6.8	2,975	▲ 2.1	1,127	▲ 0.5
6	268,652	▲ 1.5	10,737	▲ 11.6	155	▲ 51.9	3,603	▲ 12.8	2,750	▲ 1.3	987	▲ 16.6
7	280,471	▲ 0.1	11,552	▲ 2.6	144	▲ 59.1	4,135	▲ 13.0	2,923	▲ 1.5	1,103	▲ 7.0
8	291,156	▲ 3.2	8,996	▲ 3.3	179	▲ 20.8	2,890	▲ 6.9	2,058	▲ 4.1	977	▲ 0.4
9	274,309	▲ 0.3	9,269	▲ 1.0	288	▲ 70.4	3,310	▲ 3.5	2,082	▲ 3.3	805	▲ 0.5
10	282,401	▲ 2.1	11,468	▲ 4.3	179	▲ 19.0	4,481	▲ 3.6	2,459	▲ 4.3	1,008	▲ 4.3
11	273,268	▲ 2.5	12,390	▲ 12.2	351	▲ 195.0	5,116	▲ 14.1	2,291	▲ 16.6	1,160	▲ 12.4
12	318,254	▲ 4.2	12,099	▲ 15.3	22	▲ 73.2	4,938	▲ 13.9	2,214	▲ 14.0	1,356	▲ 20.3
2016 - 1	280,973	▲ 3.1	12,332	▲ 4.3	42	▲ 77.7	5,401	▲ 8.8	2,374	▲ 1.8	1,137	▲ 3.2
2	269,774	▲ 1.6	8,435	▲ 4.0	63	▲ 46.2	3,755	▲ 3.3	1,495	▲ 12.6	669	▲ 9.7
3	300,889	▲ 5.3	11,815	▲ 10.4	129	▲ 24.0	5,509	▲ 10.8	1,997	▲ 14.7	752	▲ 7.2
4	298,520	▲ 0.7	11,452	▲ 8.3	130	▲ 16.1	4,232	▲ 11.1	2,486	▲ 1.8	866	▲ 1.7
5	281,827	▲ 1.6	13,167	▲ 5.3	317	▲ 213.9	4,653	▲ 11.0	3,057	▲ 2.8	1,151	▲ 2.1
6	261,452	▲ 2.7	10,717	▲ 0.2	194	▲ 25.2	3,523	▲ 2.2	2,717	▲ 1.2	1,001	▲ 1.4
7	278,067	▲ 0.9	10,995	▲ 4.8	149	▲ 3.5	3,781	▲ 8.6	2,724	▲ 6.8	1,223	▲ 10.9
8	276,338	▲ 5.1	8,024	▲ 10.8	100	▲ 44.1	2,693	▲ 6.8	1,923	▲ 6.6	876	▲ 10.3
9	267,119	▲ 2.6	8,129	▲ 12.3	86	▲ 70.1	2,919	▲ 11.8	1,791	▲ 14.0	752	▲ 6.6

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4項目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source:Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks:Clothing&amp;footwear includes japanese clothing ,clothing ,shirts&amp;sweaters and other items.

Year value is mean of the each month

## 一資料・海外一

### (1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2009年	2010年	2011年
日本	Japan	トン 327	トン 265	トン 220
中国	China	575,299	617,915	836,000
インド	India	131,661	131,924	185,968
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	4,673
ブラジル	Brazil	4,835	4,439	3,037
タイ	Thailand	4,655	4,655	4,580
ウズベキスタン	Uzbekistan	25,896	20,000	9,400
イラン	Iran	1,185	1,185	789
トルコ	Turkey	140	140	154
インドネシア	Indonesia	133	161	143
ブルガリア	Bulgaria	51	75	48
ギリシャ	Greece	100	100	100
フィリピン	Philippines	4.0	4	6.0
シリア	Syria	4.0	4	3.3
主要国の計	Total	765,290	801,867	1,045,121

区 分		2012年	2013年	2014年
日本	Japan	トン 202	トン 168	トン 149
中国	China	831,000	817,000	819,000
インド	India	190,960	213,548	231,516
ベトナム	Vietnam	4,206	4,439	3,925
ブラジル	Brazil	2,620	2,608	2,563
タイ	Thailand	4,580	4,755	4,839
ウズベキスタン	Uzbekistan	9,400	9,800	11,000
イラン	Iran	809	809	724
トルコ	Turkey	154	175	224
インドネシア	Indonesia	143	114	71
ブルガリア	Bulgaria	73	73	65
ギリシャ	Greece	100	100	100
フィリピン	Philippines	5.4	6.0	6.6
シリア	Syria	3.3	4.7	3.3
主要国の計	Total	1,044,256	1,053,600	1,074,186

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)の統計値を使用した。

注2 生糸生産量からの推計を含む。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

## (2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2009年		2010年		2011年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	69	1,152	53	882	44	731
中国	China	92,455	1,540,917	95,778	1,596,300	103,849	1,730,817
インド	India	16,322	272,033	16,360	272,667	23,060	384,333
ベトナム	Vietnam	550	9,167	2,250	37,500	500	8,333
ブラジル	Brazil	811	13,517	770	12,833	558	9,300
タイ	Thailand	665	11,083	665	11,083	655	10,917
ウズベキスタン	Uzbekistan	780	13,000	940	15,667	940	15,667
イラン	Iran	82	1,367	75	1,250	120	2,000
トルコ	Turkey	20	333	18	300	22	367
インドネシア	Indonesia	19	317	20	333	20	333
ブルガリア	Bulgaria	9.0	150	9.0	150	6.0	100
ギリシャ	Greece	4	67	4	67	4	67
フィリピン	Philippines	1	17	1	17	1	17
シリア	Syria	0.6	10	0.6	10	0.5	8
主要国の計	Total	111,788	1,863,129	116,944	1,949,059	129,779	2,162,989

区 分		2012年		2013年		2014年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	30	506	25	409	28	466
中国	China	126,000	2,100,000	130,000	2,166,667	146,000	2,433,333
インド	India	23,679	394,650	26,480	441,333	28,708	478,467
ベトナム	Vietnam	450	7,500	475	7,917	420	7,000
ブラジル	Brazil	440	7,333	440	7,333	433	7,217
タイ	Thailand	655	10,917	680	11,333	692	11,533
ウズベキスタン	Uzbekistan	940	15,667	980	16,333	1,100	18,333
イラン	Iran	123	2,050	123	2,050	110	1,833
トルコ	Turkey	22	367	25	417	32	533
インドネシア	Indonesia	20	333	16	267	10	167
ブルガリア	Bulgaria	9.0	150	9	150	8	133
ギリシャ	Greece	4	67	4	67	4	67
フィリピン	Philippines	0.9	15	1.0	17	1.1	18
シリア	Syria	0.5	8	0.7	12	0.5	8
主要国の計	Total	152,374	2,539,563	159,258	2,654,304	177,547	2,959,109

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 シェアの大きいベトナムは、2005年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

### (3)中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量

Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)				生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)			
		2011	2012	2013	2014	2011	2012	2013	2014
山 西	Shanxi	6,675	6,001	4,945	4,872	64	55	65	61
河 北	Hebei								
遼 寧	Liaoning					4,184	2,463	2,310	4,504
江 蘇	Jiangsu	65,618	66,537	54,501	52,645	13,003	19,493	20,949	29,738
浙 江	Zhejiang	50,885	46,728	45,256	38,442	5,748	6,688	14,293	15,505
安 徽	Anhui	25,185	21,601	18,286	16,488	5,040	8,139	8,909	9,101
江 西	Jiangxi	9,179	9,216	9,121	9,072		3,021	4,653	6,225
山 東	Shandong	20,000	22,000	21,200	20,800	3,613	5,452	4,949	3,414
河 南	Henan	10,023	10,003	9,608	7,984			1,972	2,160
湖 北	Hubei	17,300	16,850	16,550	16,450	437	572	1,007	1,683
湖 南	Hunan	2,596	2,336	2,595	2,988				
広 東	Guangdong	75,066	45,000	36,523	35,659	1,183	1,548	1,726	2,312
広 西	Guangxi	231,005	256,000	271,000	279,500	8,312	27,834	35,425	40,645
重 慶	Chongqing	17,144	16,716	15,711	15,733	3,811	3,402	3,653	4,730
四 川	Sichuan	74,008	74,600	76,000	77,000	27,742	27,268	29,065	38,096
貴 州	Guizhou	2,410	2,226	2,226	2,161	182	128	234	291
雲 南	Yunnan	40,000	43,000	44,648	46,016	2,108	2,777	2,814	3,433
陝 西	Shaanxi	17,999	11,080	12,014	12,500	4,391	4,642	5,067	5,386
甘 肅	Gansu	373	385	364	348				
寧 夏	Ningxia	575	610	826	578				
新 疆	Xinjiang	100	150	100	100				
内 蒙 古	Inner Mongolia								
合 計	Total	667,240	654,990	643,024	641,006	79,817	113,478	137,090	167,284

資料：中国絲綢年鑑による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

#### (4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移

Domesticated Cocoon Production in China

(単位：万トン)(Unit: 10,000ton)

地域	Area	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
北 京	Beijing															
天 津	Tianjin															
河 北	Hebei	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.6	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6
内 蒙 古	Inner Mongolia															
遼 寧	Liaoning														0.0	0.0
吉 林	Jilin															
黒 龍 江	Heilongjiang															
上 海	Shanghai															
江 蘇	Jiangsu	9.0	10.1	11.9	10.7	11.7	10.6	12.3	11.2	9.9	7.9	7.9	7.1	6.8	5.9	5.7
浙 江	Zhejiang	9.5	11.0	9.9	7.9	8.4	8.5	9.6	9.6	8.2	6.8	6.4	6.5	6.1	5.5	4.7
安 徽	Anhui	2.5	2.7	2.8	2.6	3.0	3.1	3.6	3.9	3.8	2.9	3.3	3.2	3.3	3.2	3.1
福 建	Fujian														0.0	
江 西	Jiangxi	0.3	0.5	0.7	0.8	0.8	0.9	1.1	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7
山 東	Shandong	5.3	6.9	6.9	6.7	6.6	6.3	7.0	6.8	6.1	5.2	4.2	3.6	3.3	3.1	2.5
河 南	Henan	1.3	1.5	1.7	1.1	1.4	1.5	1.6	1.8	2.2	2.2	2.1	1.9	1.9	1.8	1.7
湖 北	Hubei	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.1	1.2	1.2	1.2	0.6	0.7	0.8	0.8	0.8	0.6
湖 南	Hunan		0.1	0.1	0.2	0.1									0.0	0.1
広 東	Guangdong	3.1	4.5	5.3	5.2	5.7	6.5	7.5	8.4	8.4	8.6	9.1	9.6	9.7	10.2	10.5
広 西	Guangxi	3.0	5.6	7.4	8.7	10.7	14.8	19.7	23.3	22.3	22.5	26.5	29.6	31.6	32.3	34.0
海 南	Hainan													0.1	0.0	0.1
重 慶	Chongqing	3.0	3.2	3.4	2.8	2.9	3.1	2.7	2.9	2.4	1.9	2.0	2.0	2.1	1.8	1.8
四 川	Sichuan	8.7	9.2	9.3	9.3	9.7	9.8	9.8	10.9	10.6	10.7	11.1	11.2	11.4	11.3	11.3
貴 州	Guizhou	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1			0.0	0.0
雲 南	Yunnan	0.7	0.9	1.1	1.3	2.6	1.9	2.4	3.0	2.9	2.7	2.5	2.9	2.6	2.8	3.2
チベット	Tibet															
陝 西	Shaanxi	1.5	1.6	1.7	1.9	2.1	2.3	2.6	3.0	3.3	2.6	2.5	3.5	1.9	1.3	1.2
甘 肅	Gansu														0.0	0.0
青 海	Qinghai															
寧 夏	Ningxia															
新 疆	Xinjiang	0.3	0.3	0.2	0.1											
合 計	Total	50.1	60.2	64.5	61.1	67.7	71.3	82.0	87.9	83.1	76.1	80.0	83.6	83.1	81.7	81.9

資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

Source: "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

(5) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格  
Spot Price of Various Silk Goods

2016年10月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		115.55 ~ 136.50	1,733 ~ 2,048
2	玉繭(double cocoon)		100.03 ~ 108.85	1,500 ~ 1,633
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	103.98 ~ 122.00	1,560 ~ 1,830
4	ビス(bisu)		92.78 ~ 103.15	1,392 ~ 1,547
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	362.40 ~ 368.48	5,436 ~ 5,527
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	366.03 ~ 370.83	5,490 ~ 5,562
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	355.75 ~ 360.75	5,336 ~ 5,411
8	玉糸(doupion silk)	110d	341.00 ~ 356.00	5,115 ~ 5,340
9	土糸(native silk)	110d	311.50 ~ 327.25	4,673 ~ 4,909
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	30.38 ~ 33.00	456 ~ 495
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	26.17 ~ 29.08	392 ~ 436
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	45.50 ~ 49.75	683 ~ 746
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	48.50 ~ 52.00	727 ~ 780
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	42.67 ~ 45.17	640 ~ 678
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	35.33 ~ 38.00	530 ~ 570

注:1元=15円

2016年11月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		116.70 ~ 134.80	1,867 ~ 2,157
2	玉繭(double cocoon)		102.36 ~ 109.98	1,638 ~ 1,760
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	104.50 ~ 122.58	1,672 ~ 1,961
4	ビス(bisu)		93.02 ~ 102.48	1,488 ~ 1,640
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	363.86 ~ 369.78	5,822 ~ 5,916
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	369.18 ~ 373.18	5,907 ~ 5,971
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	358.00 ~ 362.80	5,728 ~ 5,805
8	玉糸(doupion silk)	110d	338.20 ~ 357.80	5,411 ~ 5,725
9	土糸(native silk)	110d	314.20 ~ 332.40	5,027 ~ 5,318
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	30.80 ~ 33.80	493 ~ 541
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	26.63 ~ 29.30	426 ~ 469
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	47.00 ~ 52.00	752 ~ 832
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	49.33 ~ 52.33	789 ~ 837
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	43.07 ~ 45.40	689 ~ 726
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	35.80 ~ 38.13	573 ~ 610

注:1元=16円

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省嘉興市)発表

Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

## (6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年指数

Total Wage Bill of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	賃金総額 (億元) Total Wage Bill (100million yuan)				対前年指数 Indices (preceding year=100)			
	全体 Total	国有企業 State- owned Units	集団企業 Urban Collective -owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State- owned Units	集団企業 Urban Collective -owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	8,055.8	6,172.6	1,210.6	672.6	119.0	117.4	115.6	142.2
1997年	9,602.4	7,323.9	1,283.9	994.5	103.8	106.2	101.1	124.0
1998年	9,540.2	6,934.6	1,054.9	1,550.7	99.4	94.7	82.2	155.9
1999年	10,155.9	7,289.9	995.8	1,870.1	106.5	105.1	94.4	120.6
2000年	10,954.7	7,744.9	950.7	2,259.1	107.9	106.2	95.5	120.8
2001年	12,205.4	8,515.2	898.5	2,791.7	111.4	109.9	94.5	123.6
2002年	13,638.1	9,138.0	863.9	3,636.2	111.7	107.3	96.1	130.3
2003年	15,329.6	9,911.9	867.1	4,550.6	112.4	108.5	100.4	125.1
2004年	17,615.0	11,038.2	876.2	5,700.6	114.9	111.4	101.0	125.3
2005年	20,627.1	12,291.7	906.4	7,429.0	117.1	111.4	103.4	130.3
2006年	24,262.3	13,920.6	983.8	9,357.9	117.6	113.3	108.5	126.0
2007年	29,471.5	16,689.1	1,108.1	11,674.3	121.5	119.9	112.6	124.8
2008年	35,289.5	19,487.9	1,203.2	14,598.4	119.7	116.8	108.6	125.0
2009年	40,288.2	21,862.7	1,273.3	17,152.1	114.2	112.2	105.8	117.5
2010年	47,269.9	24,886.4	1,433.7	20,949.7	117.3	113.8	112.6	122.1
2011年	59,954.7	28,954.8	1,737.4	29,262.4	126.8	116.3	121.2	139.7
2012年	70,914.2	32,950.0	1,990.4	35,973.8	118.3	113.8	114.6	122.9
2013年	93,064.3	33,359.6	2,195.8	57,508.9	131.2	101.2	110.3	159.9
2014年	102,817.2	36,106.6	2,302.7	64,408.0	110.5	108.2	104.9	112.0

資料： 中国統計年鑑 (2015)

Source: China Statistical Yearbook 2015

## (7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年指数

Average Wage of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	年平均賃金 (元) Average Wage (yuan)				対前年指数 Indices (preceding year=100)							
					名目賃金 Average Wage				実質賃金 Average Real Wage			
	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	5,348	5,553	3,934	7,728	118.9	117.3	121.1	119.9	101.8	100.4	103.7	102.6
1997年	6,444	6,679	4,516	9,092	107.8	107.6	104.7	106.7	104.5	104.4	101.6	103.5
1998年	7,446	7,579	5,314	9,241	115.5	113.5	117.7	101.6	116.2	114.2	118.4	102.3
1999年	8,319	8,443	5,758	10,142	111.7	111.4	108.4	109.8	113.2	112.9	109.8	111.2
2000年	9,333	9,441	6,241	11,238	112.2	111.8	108.4	110.8	111.3	110.9	107.5	109.9
2001年	10,834	11,045	6,851	12,437	116.1	117.0	109.8	110.7	115.3	116.2	109.0	109.9
2002年	12,373	12,701	7,636	13,486	114.2	115.0	111.5	108.4	115.4	116.2	112.6	109.5
2003年	13,969	14,358	8,627	14,843	112.9	113.0	113.0	110.1	111.9	112.0	112.0	109.1
2004年	15,920	16,445	9,723	16,519	114.0	114.5	112.7	111.3	110.3	110.9	109.1	107.7
2005年	18,200	18,978	11,176	18,362	114.3	115.4	114.9	111.2	112.5	113.6	113.1	109.4
2006年	20,856	21,706	12,866	21,004	114.6	114.4	115.1	114.4	112.9	112.7	113.4	112.7
2007年	24,721	26,100	15,444	24,271	118.5	120.2	120.0	115.6	113.4	115.0	114.8	110.6
2008年	28,898	30,287	18,103	28,552	116.9	116.0	117.2	117.6	110.7	109.8	111.0	111.4
2009年	32,244	34,130	20,607	31,350	111.6	112.7	113.8	109.8	112.6	113.7	114.8	110.8
2010年	36,539	38,359	24,010	35,801	113.3	112.4	116.5	114.2	109.8	108.9	112.9	110.7
2011年	41,799	43,483	28,791	41,323	114.4	113.4	119.9	115.4	108.6	107.7	113.9	109.6
2012年	46,769	48,357	33,784	46,360	111.9	111.2	117.3	112.2	109.0	108.3	114.3	109.2
2013年	51,483	52,657	38,905	51,453	110.1	108.9	115.2	111.0	107.3	106.1	112.2	108.2
2014年	56,360	57,296	42,742	56,485	109.5	108.8	109.9	109.8	107.2	106.6	107.6	107.5

資料：中国統計年鑑2015

Source: China Statistical Yearbook 2015

## (8)中国産業別従業員年平均賃金の推移

Average Wage of Employed Persons in Urban Units by Sector

(単位:元)(yuan)

産業別 Sector	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
農、林、牧、漁業 Agriculture, Forestry, Fishery	8,207	9,269	10,847	12,560	14,356	16,717	19,469	22,687	25,820	28,365
採掘業 Mining	20,449	24,125	28,185	34,233	38,038	44,196	52,230	56,946	60,138	61,677
製造業 Manufacturing	15,934	18,225	21,144	24,404	26,810	30,916	36,665	41,650	46,431	51,369
電力、ガス、水道業 Production/Distribution of Electricity, Gas and Water	24,750	28,424	33,470	38,515	41,869	47,309	52,723	58,202	67,085	73,339
建築業 Construction	14,112	16,164	18,482	21,223	24,161	27,529	32,103	36,483	42,072	45,804
交通、運輸、倉庫、郵便業 Transport, Storage and Post	20,911	24,111	27,903	32,041	35,315	40,466	47,078	53,391	57,993	63,416
情報通信コンピューターサービス Information Transmission, Computer Service and Software	38,799	43,435	47,700	54,906	58,154	64,436	70,918	80,510	90,915	100,845
卸売、小売業 Wholesale and Retail Trades	15,256	17,796	21,074	25,818	29,139	33,635	40,654	46,340	50,308	55,838
ホテル、飲食業 Hotels and Catering Services	13,876	15,236	17,046	19,321	20,860	23,382	27,486	31,267	34,044	37,264
金融業 Financial Intermediation	29,229	35,495	44,011	53,897	60,398	70,146	81,109	89,743	99,653	108,273
不動産業 Real Estate	20,253	22,238	26,085	30,118	32,242	35,870	42,837	46,764	51,048	55,568
賃貸、リース業 Leasing and Business Services	21,233	24,510	27,807	32,915	35,494	39,566	46,976	53,162	62,538	67,131
科学研究、技術サービス業 Scientific Research, Technical Services	27,155	31,644	38,432	45,512	50,143	56,376	64,252	69,254	76,602	82,259
水利、環境管理業 Manage of Water Conservancy, Environment and Public Services	14,322	15,630	18,383	21,103	23,159	25,544	28,868	32,343	36,123	39,198
家庭サービス業 Services to Households and Other Services	15,747	18,030	20,370	22,858	25,172	28,206	33,169	35,135	38,429	41,882
教育 Education	18,259	20,918	25,908	29,831	34,543	38,968	43,194	47,734	51,950	56,580
衛生、社会保障、社会福祉業 Health, Social Securities and Entertainment	20,808	23,590	27,892	32,185	35,662	40,232	46,206	52,564	57,979	63,267
文化、スポーツ、娯楽業 Culture, Sports and Entertainment	22,670	25,847	30,430	34,158	37,755	41,428	47,878	53,558	59,336	64,375
公共機関、社会団体 Public Management and Social Organization	20,234	22,546	27,731	32,296	35,326	38,242	42,062	46,074	49,259	53,110
合計 Total	18,200	20,856	24,721	28,898	32,244	36,539	41,799	46,769	51,483	56,360

(出所)中国統計年鑑2015

Source: China Statistical Yearbook 2015

上記を円(Yen)換算

産業別 Sector	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
製造業 Manufactur	212,560	273,375	317,160	366,060	375,340	401,908	476,645	541,450	835,758	976,011
合計 Total	242,788	312,840	370,815	433,470	451,416	475,007	543,387	607,997	926,694	1,070,840
年別人民元yuan/円yenレート	13.34	15.00	15.00	15.00	14.00	13.00	13.00	13.00	18.00	19.00

### (9) 中国省別従業員年平均賃金(2014年)

Average Wage of Employed Persons Urban Units by Region

省(区)別 Region			年平均賃金 (単位:元)(yuan)	円換算 (円) (yen)	全国平均比(%) Indices(average=100)
北	京	Beijing	102,268	1,943,092	181.45
天	津	Tianjin	72,773	1,382,687	129.12
河	北	Hebei	45,114	857,166	80.05
山	西	Shanxi	48,969	930,411	86.89
内	蒙	Inner Mongolia	53,748	1,021,212	95.37
遼	寧	Liaoning	48,190	915,610	85.50
吉	林	Jilin	46,516	883,804	82.53
黒	龍	Heilongjiang	44,036	836,684	78.13
上	海	Shanghai	100,251	1,904,769	177.88
江	蘇	Jiangsu	60,867	1,156,473	108.00
浙	江	Zhejiang	61,572	1,169,868	109.25
安	徽	Anhui	50,894	966,986	90.30
福	建	Fujian	53,426	1,015,094	94.79
江	西	Jiangxi	46,218	878,142	0.03
山	東	Shandong	51,825	984,675	91.95
河	南	Henan	42,179	801,401	74.84
湖	北	Hubei	49,838	946,922	88.43
湖	南	Hunan	47,117	895,223	83.60
広	東	Guangdong	59,481	1,130,139	105.54
広	西	Guangxi	45,424	863,056	80.60
海	南	Hainan	49,882	947,758	88.51
重	慶	Chongqing	55,588	1,056,172	98.63
四	川	Sichuan	52,555	998,545	93.25
貴	州	Guizhou	52,772	1,002,668	93.63
雲	南	Yunnan	46,101	875,919	81.80
西	蔵	Tibet	61,235	1,163,465	108.65
陝	西	Shaanxi	50,535	960,165	89.66
甘	肅	Gansu	46,960	892,240	83.32
青	海	Qinghai	57,084	1,084,596	101.28
寧	夏	Ningxia	54,858	1,042,302	97.33
新	疆	Xinjiang	53,471	1,015,949	94.87
全	国	Average	56,360	1,070,840	100.00

(出所) 中国統計年鑑2015 Source: China Statistical Yearbook 2015

(注) 1元=19円 Note: 1yuan=19yen

**(10)ブラジルの繭・生糸生産数量の推移**  
**Cocoon and Raw Silk Production in Brazil**

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08	6,266 (73%)
2008/09	4,835 (77%)
2009/10	4,439 (92%)
2010/11	3,037 (68%)
2011/12	2,620 (86%)
2012/13	2,608 (99%)
2013/2014	2,563 (98%)
2014/2015 [見込み] [Estimate]	2,764 (108%)

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009	811,020 (69%)	13,517
2010	769,903 (95%)	12,832
2011	557,633 (72%)	9,294
2012	439,504 (79%)	7,325
2013	440,301 (100%)	7,338
2014	432,500 (98%)	7,208
2015 [見込み] [Estimate]	435,500 (101%)	7,258

資料: ブラタク製糸株式会社

注: ( )内は対前年比

[ ]内の見込みは2015年4月現在

Source: Fiação de Seda Brtac S.A

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of April 2015.

※「シルクレポート」の記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

**<http://www.silk-teikei.jp>**

シルクレポート 2017年1月号 NO.52 平成29年1月1日発行

編集 / 発行

**一般財団法人大日本蚕糸会  
蚕糸・絹業提携支援センター**

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館6階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3511

URL:<http://www.silk-teikei.jp>

製本 / 印刷

株式会社正大印刷社

無断転載禁ず